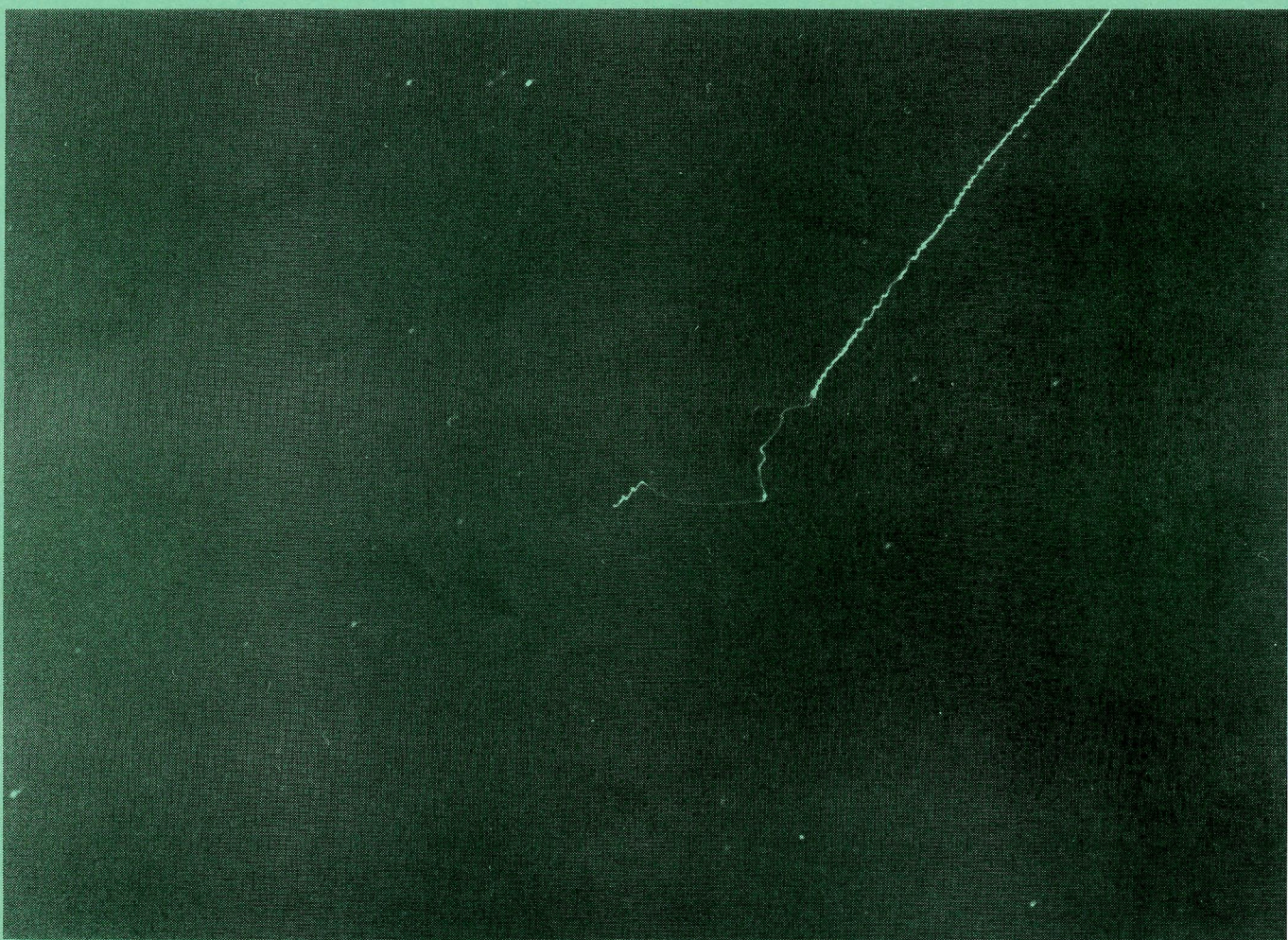


日本GAP横浜支部報

oneness



No.3

oneness No.3

自然の法則	清水 正	1
宇宙哲学で奇跡を起こす方法	久保田八郎	2
私が体験した万物一体感とU F O目撃	千葉 常男	14
出会い	匿 名	15
今 自分が感じること	高木 伴幸	16
爽快な気持ち	藤村 政横	17
アダムスキー哲学を生かす	小鷹 誠厳	18
大成功!! 横浜支部U F O観測会	外野 浩司	20
アグニュー・バンスン氏の「電氣的推力発生装置」	杉山 敏樹	22
編集後記		23

表紙写真 95年2月撮影のU F O

川村 隆男氏



自然の法則



清水正

私たちが生を受けたこの地球は、環境破壊のために多くの生物種が絶滅しつつあるといわれています。それはかつて人類が経験したことのない速さで進んでいるということです。

有史以来、これほどまでに人類が多くの化石燃料を駆使して、科学力を持って大自然に対して挑んだことがあったでしょうか。

一部の人たちが、自然を囲い込んで、食糧の確保や、権利としての地球のあらゆる資源を囲い、安全と安心を手に入れるように努力してきました。

ところが、ここに来て地球の限られた場所では自己都合の利益を求めるのには限界にきていることがわかってきました。そして今、地球人類はこの状況にどのようなに対処するのかの問題に直面しています。

しかし、地球は宇宙の広大さから見れば小さな環境であるように見えても、その自己浄化力は相当あるらしいことがわ

かっています。

最近、地球温暖化が心配されています。温暖化は二酸化炭素の温室効果によって太陽の熱エネルギーが地球の大気圏にたまっていくものですが、地球環境では二酸化炭素を取り込む力が相応に働き、大気成分を一定に保つ作用があるようです。これまでの化石燃料の消費と火山の噴

火等による地球内部からの二酸化炭素の発生と吸収を割出した結果、現在あると推定される量を実際ははるかに下回っています。そのようになっているのは、私たちに把握しきれない要素、特に海に何らかの働きがあると見られています。

海にはサンゴが石灰成分として、これまで何万年にも互って堆積して二酸化炭素を閉じ込めてきました。又、海中に吸収された二酸化炭素が深海に液体として発見されています。

地球自体には逆に酸素が増え過ぎないような働きもあります。それは、バクテリアの活動によってメタンを発生、その結果酸素を消費してゆく過程があります。酸素が増えるとバクテリアの活動が活発になるといいます。酸素は地球大気の二パーセントに保たれ、酸素が増え過ぎて地球上が燃え尽きるこのないように精妙なバランスでもって全体としての生物が活動できるように維持されています。

そして、多くの生命が地球上で共に原子、分子を交換しながら助け合っています。

地球を考えた時、なぜ地球自体が大気を持ち、生物に場所を提供しているのか

でしょうか。又、この大気の元をなぜ地球内部から吐き出しているのでしょうか。その大部分が二酸化炭素と水蒸気であり、地球上の生命にとって大切な要素となっています。これは自然の法則そのものの現れであり、生命全体の原子、分子の流れの中に地球自体が深くかかわっていることを示しています。

生きている地球にギリシャ人が大地の女神と呼んだ「ガイア」はイギリスの化学者、ジェームス・ラブロックとアメリカの生物学者、リン・マーグリスが仮説として打ち出し、地球が自己調節機能をもつ一つの生命体だと主張したものです。彼らによれば、生物相と地球化学的組成とは共生関係にあって、地球環境を生命の存続と繁栄に適した安全状態に保っているといえます。大気がただの「環境」ではなく、生命そのものの一部であるのではないかと考えました。

地球を生命体として捕えた時、見えて来るものがあります。生命体はいつも正常なバランスをとうとうと活動しています。私たちの体が完全に健康であるように、地球自体も完全さを現わそうという働きがあります。地球には自然治癒力があるのではないのでしょうか。

私たちはアダムスキーから他の惑星の実体について知られています。私たちの良き目標として彼ら（スペース・ピブル）の教えによって次に目ざす社会がどうあることが必要なことなのか、そして、ホーム惑星である地球とのかかわり方を考えることができます。

私たちは地球と一体であり、多くのものを与えられて生物として生かされてきました。いずれ借り物である肉体は返さなければなりません。そして今でも体内では激しい勢いで化学変化をとまな

原子、分子が入りかわっています。改めて人間の存在意義を宇宙的に考えると、地球人類は宇宙へ進出して大気圏外から地球を見つめ直す必要があります。アダムスキーは土星会議の席で地球人に向けて次のようなメッセージを受けています。

「大気圏外へ進出することによって人間は他のいかなる方法によるよりも早く自然の法則を知るでしょう。自然は決して休息しないで絶えまない創造の過程にあるのであって、だからこそ「いつか人間の完成があるのだ」と感じるわけです」。(新アダムスキー全集五)

私たちは大気圏外へ身近かに進出する機会がなくても、自己の意識を宇宙へ拡げ見つけることができます。その結果、個々に現われている現象は互いに大きく結びついた一つの場の中にあることが理解されてくるのではないのでしょうか。あらゆるものが一つであり、共に多くの変化の過程で完全さを現わそうとしています。はるか昔、地球には偉大な民族、トリテリア人が住んでいたとアダムスキーは言います。彼らは、現代地球人が考えがちな自然の法則に打ち勝つ人々ではなく、自然の法則に完全に協力した人々であったということです。

私たちは自然の法則を知ることと同時に協力することを問われる時代に生きているといっているのでしょうか。

宇宙哲学で奇跡を起こす方法

日本GAP会長

久保田 八郎



この記事は、一九九四年三月二〇日、横浜市で開催されました、第一回日本GAP横浜支部大会での久保田八郎会長の講演を文章化したものです。会長御自身に加筆訂正していただきました。

連日の激務にもかかわらず、怒涛のパワーを発揮しての講演は宇宙哲学を自ら実践している強い信念を感じさせます。会長には大会を通じて風邪でベストコンディションとはいえないまでも、次第に体調が向上していく状況を見ることができて、想念の力を教えていただいたように思います。

講演は「場」の理論を中心に、想念による原因と結果について述べられ、イメージによる「場」の形成をわかりやすく説明しています。

「久保田会長による掲載許可済み」

皆さんこんにちは。ただいまご紹介にあずかりました、久保田でございます。今日は横浜支部の第一回の支部大会が盛大に開催されて誠にめでたうございました。代表の清水正氏、その他の方々に厚くお礼を申し上げます。

清水君はかなり古い会員でありまして、元は山形支部の代表でございました。非常に温厚篤実な人でありまして、私も昔から信頼をしておりました。また、海外旅行などにも何度も一緒に行っておりまゝす。海外旅行にでかけますと人間の本当の洗いざらいの姿が見えるんですが、清水君はそういう場合でもけっしていい加減なところがないですね。本当に誠実です。

そういうことでして、その清水君の率いるところのこの横浜支部がこれから大発展を遂げることを大いに期待している次第であります。

また先ほどは杉山俊樹君のなかなか素晴らしいお話をありがとうございました。杉山君は確か十年位前かな、もった昔だったかね、仙台の支部大会に私行きましたときにあのときにいましたね。

杉山君は先程しきりにイメージの力によってそれを応用して、素晴らしい成果を上げていることを聞いて、大変これは同君も進歩されましたなと私関心をして聞いておりました。実は今日私がお話しすることにもそれに深い関係があります。後から話します。

お祝いの想念ほど美しく高貴なものはない

それからこの前三月十三日には、本日見えています加藤純一君、これは本部役員ですが、それと同じく役員の越崎祐子さんの結婚式が挙行されて、とても

盛大でよろしゅうございました。

あそこに写真がありますから、後で御覧になって下さい。これはどちらも役員同志でありますから、私が主体になりまして、本部役員一同でもって盛大なGAP方式の結婚式を行いました。

それとその後披露宴を銀座八丁目の名門であります資生堂パラーの宴会場で開催しました。とても素晴らしい一日でありまして、私も尽力した甲斐があったなと心から喜んでおります。

今までGAP関係の披露パーティー、まあ披露宴ですね、これを私随分やっております、GAP会員同志ならば、私の方で主催しまして、会員制でありますから、したがって新郎新婦は会費は一円もお金が掛かりません。こんなに経済的なことはありません。

この間もそうだったんです。結婚式といいますが、これもGAP方式で本日

見えております伊豆支部代表の高梨君が教会の牧師さんの代わりをやりまして、宇宙哲学にもつく堂々たる文章を読みあげて、新郎新婦の結婚の宣言と確認を致しましたから、これぐらい素晴らしいことではないです。これもお金はたの「銭も」かかっておりませんです。こうゆうふうにしましてね、御両家の御両親様方御親族の方々にとても喜んで頂きました。

そこでこの間の十三日の結婚披露宴で私は痛切に感じたんですが、とにかく私は今まで何十組も披露宴に出ておりますGAP会員同志でなくてもこの年になりますと何十組も出席させて頂いておりますが、これはやっぱりもう慣れたから面白くないというところは全くないですね。いつ出席しても本当に清々しい祝福の想念波動に満ちております。それで痛感しましたことは、とにかく祝福つまりお祝いをするという想念くらい美しい高貴なものはないということなんです。これはまあ結婚式特有の波動であります。結婚式となりゃあ、特に披露パーティーともなれば、みんながお祝いの想念波動を持ってやって来るわけです。悲しみの想念で来る人はありません。中には多少うらやましがってやつかみ半分で来る人もあるかもしれませんが、やっぱりおめでたいことです。結局お祝いの波動をみんな持って来るんです。

祝福は幸せになるカルマを造る

おめでたいなといって自分自身でお祝いの想念を発しますが、これを普段のあ

らゆる場合に、あらゆる人に向かっておめでとうございませうという想念を放つならば、これは素晴らしいことじゃないかと私は思うんです。

ですが別に結婚したわけでもない人に向かつて「おめでとうございませう」なんて言うのと、相手がキョトンとして「わし」が何がめでたいんじや」と妙な顔をして聞き返すでしょうね。

そこで、そういう言葉を口に出さないので、心の中で誰を見ても「おめでとうございませう」と言うわけですね。なぜめでたいかといいますと、それは相手の人が宇宙の創造主によって人間として創造された。つまり造りだされてちゃんとした一人の人格として万物の霊長としてここに存在しているから、これ以上のものでたいことはないんじゃないかという気持ちで、誰を見ても「おめでとうございませう」という気持ちを持ってその波動を発するならばこれは最高に自分が幸せになる大きなカルマを造ることになると私は思いましたですね。

前から思わんことはなかったんですがこの間、加藤君の婚礼でもってそのことを痛切に感じました。

ですからあらゆる人を見ても「めでたい」。それから更に人間ばかりじゃなしに、後からまた科学的な話になるんですが、どんな無生物の物質を見ても、そこに物質として創造され存在していること自体がこれ以上祝福すべきことはないんじゃないかということから、物質に向かつて「おめでとう」というような気持ちで発するならば、これはまず最高であ

ろうと思えますね。

例えばここにテーブルがあります。これはもとかの木で作ったんでしようが、普通の人はただの物質としか見ませんから、これが少々汚れてもキズがついても何とも思わないんですが、本当はそうじゃなくて、人間の手によってこうしてきちゃんと削られて、机という形に作られてここに置いてあって、それで人間様の役に立っているんですから、これはこれで充分役割を果たしているものですから、これはめでたいことです。

この机を愛であげなくちゃいけない。愛であるということは、祝福することです。そうゆうふうには無生物に対しても、すべて愛であるということが重要ではないかということはこの頃痛感致します。

何となればですね、これは後から物理的な話になるんですが、あらゆる空間の中に存在する生物、無生物は、すべて空間そのものの、一つのそれぞれの違う面を現わしたものに過ぎないんじゃないかというふうなそういう素晴らしい論文を最近私の所に送ってよこした人があるんです。

最近でもなくて、去年送ってきたんですがね。なかなかユーコン誌に載せる余裕がなかったんですが、今度125号に載せます。それは何かといいますと、元山形支部におりました伊藤睦史君という人が「生命と物質と超能力」という題で素晴らしい記事をよくしました。これはまあ記事のゲラ刷りですがね、これは字の誤植つまり間違いを直して後でまた

校正したものを印刷所に渡すんですが、大変素晴らしい内容です。

彼は山形大学で物理学を専攻しまして、今もずっと物理学の仕事を主体にした技術屋として働いているんですが、現在のところはパナマという中米の国がありますね。ほとんど南米に近い中米の一番南の国ですがね、あのパナマ運河のある所です。そこへ青年海外協力隊の隊員として昨年春に赴任しまして、パナマに行っておりまして、そうしてそこからわざわざ原稿を書いて、かなり長い原稿ですが、ワープロを打ってよこしたんです。

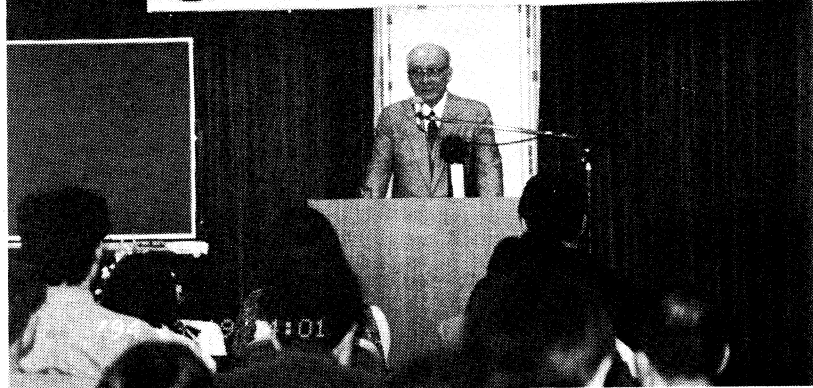
ワープロまで持っていったんかなと思っただんですが、多分持っていったんでしょね。素晴らしい内容ですこれは。

今日はこれを主体にしてですね、どうすれば一体奇跡を起こすことができるか、奇跡が起こる原因はどういうことなのかというのを彼の論文に基づいてお話ししましょう。

奇跡にも原因がある

奇跡といいますからね、これはまあ起こりうへからざる、起こるはずがないようなことが偶然に起こった場合これを普通奇跡といいます。ですが実際はこれは皆因果関係で決まることでして、原因と結果の法則ですね。これをカルマの法則とも言うんですが、これにつきます。つまり奇跡的に何か素晴らしいことが発生したのは、それはけっして偶然ではなく、そうなるべく何かの原因があったということなんです。

第1回 日本GAP横浜支部大会 1994.3.20.



原因がはっきりわかる場合もあります。例えば東大に入りたという場合、なかなか入れそうもないような学力レベルの人が、それに入れたということはこれは決して単なる偶然ではなくて、それなり何か勉強をやっていたか、あるいはまたま入学試験に出るような問題を何かの拍子に自分で勉強していたか何かの原因があるんですね。

風邪をひいた原因

そういう原因と結果の法則は大変に重

要でありまして、このことを非常にしっかりと考えていかないと奇跡を起こすことは出来ないんです。

例えば私は実は今風邪をひいてきてるんです。それで何時からひいたかといいますと、おとといの昼間は秋山氏の事務所に行きまして、一時間足らず話し合っ、夕方五時からということでしたから五時から六時近くにかけて、かなり重要な話をしたんですが、それから今度話が終って夕方うちに帰って、この講演の原稿をワープロで打っておりまして、八時頃から突然鼻水が出始めて、汚い話で恐縮ですがね。鼻水が出始めてそれがすぐ止まるだろうと思ったら止まらないんですね。大変ひどくなってくる。これはいけないというわけで早く寝たんです。そして夜割とぐっすり寝たんですが、それから朝起きてみたら、かなり良くなっていたもんで、今日一日家でじっとしておればこれで良くなると思っていましたら、朝印刷所から電話が掛かって来まして、125号のゲラ刷りがある程度出たから取りに来てくれということなんです。またそれを取りにでかけたんです。出かけてすぐに帰りゃよかったんですが、ついでに秋葉原で下りてヤマギワへ行ったらワープロの新しいものをそろそろ買い替えようかと思って、ついでにそれを見てこようかと思って、あちこち歩いて歩き回ったのがちょっと悪かったとみえて、またひどくぶり返しましたね。もう昨日は鼻水が出るやら、くしゃみが出るやらで大変な状態でした。

今朝もあんまりよくなかったんですが、

まあ今は少し落ち着いてきましたですね。なぜ風邪を引いたかといいますと、これはやはり原因があります。夕方帰ってきて、大体七時頃から私はこの原稿を打つためにワープロで打ったんですが、その時にちょっと寒かったんですが、ストープを付けないで我慢してやっていたのが悪かったんですね。その原因があつて結局風邪を引くという状態で結果がそうなったわけですね。

それで、伊藤君の説によりましてね、これはあくまでも自分の言っていることは仮説だと言つて謙虚に言っておりますから、これが絶対的に正しいとは言えないかもしれないませんが、私が読んだ限りでは、私は科学者でもなく、また物理学を専攻した人間でもありませんから、私自身がこれが絶対だとは言えないんですが、波動を感じると言いますか、直感でわかるんです。

これは正しいか間違っているかということとは例えばイギリスの有名なホーキング博士の天体物理学のいろんな理論が出ています。専門書もいろいろ出ています、一時はベストセラーになるような本もありましたですね。

ところが書店に行きまして私は、うす高く積まれているホーキング博士の本のそばを通つても、どうもそれを手に取りあけて読む気がしない。何か関心が起らないんです。いろいろ専門家に聞いてみますと、あの理論は正しいようだが、実は間違っているというふうなことを言う人が多いですね。理数系の人で、

遠藤君の話によりまして、同君は数学

の専門家ですが、あのホーキング博士の説の中には虚数が使つてある。虚数といひますのは英語でimaginary numberといひまして、これじゃ正確な理論として取りあける訳に行かないんだということを彼が言つてましたが、どうも私もそう思ふんです。

虚数というのはいわば物質の世界の裏の心霊の世界を扱っているようなものでありまして、あくまでもこれは一つの仮説的に出したものに過ぎないんです。

そういうわけでして、私は偉そうなことを言いますが、結局一種の直感といひますか、波動で感じるんです。

すべてが一つの「場」を形成している

伊藤君の論文を読みましたときに、これは素晴らしい、これは本物だということを感じましたね。これはどうせ今度載せます。かなり長いもので、これを今ここで読んでる暇はありませんし、発表する前に先に皆読んだんじゃ面白くないですから、後の楽しみに残しとくほうがいいですから、今全部読みませんが、彼が言うには、あらゆる生物それから無生物には「場」と言うものがあるんだと言ふんです。英語ではフォースフィールドと言ひますね。これはアダムスキーの円盤によく出てくる言葉で、「場」といふものがありますね。地球にはまず重力場という「場」があります。それで人間の体も一種のやはり重力場というものを発しているわけでして、その他あらゆる微生物にもみな「場」があるわ

けです。

この「場」というものが一体どうして作られるかということは、なかなかまだ科学的にハッキリ言われていないんです。しかし、これが厳然として存在していることは、これはもう地球の重力場その他天体の重力場同志で釣り合っていたり、あるいは、質量のあるものすべて重力場を持っているといえますから、そういうふうにあることは間違いないんです。それで彼の説によりますと、人間の想念もそれから物質も、物体ですね。

例えばここに水の入ったコップがあります。人間の想念もこのコップもそれから何もないように見えるこの空間も、すべて皆一つの「場」を形成しているというわけです。「場」ですね。

そのように考えますと、要するにわれわれが想念としてイメージを描きます。さつき杉山君がしきりにイメージの話をしておりましたが、イメージを描きますとこのイメージは一つの「場」を形成するのではないかと彼は言うわけです。

なぜスプーンは曲がるのか

だから例えば、念力によってスプーンを曲げるとします。あれは一体どうして曲がるかということとは、やれ元素転換が起こるからだとか何とかいわれますが、実際はですね、(黒板に描きながら)こういうふうなスプーンがまずまっすぐあったものが、途中から曲がったイメージを描く。そうすると、ここに人間の想念によって「場」が形成されるのではない

かと、で、物質というものは、安定した状態に落ち着こうという性質がありますから、そこでこのスプーンはより安定した状態になろうとしてこの「場」の方へ落ち着くんじゃいかと、それが曲がった状態で表われるんじゃないかということとを言ってるんです。

かなり深遠な説ですがね、彼はあくまでも仮説だと言っていますが、私はどうもそういう気がするんです。

したがって人間の肉体もですね、どんなに癌でも末期症状になろうが、あるいは病気で歪められようが、自分がイメージとして完全な姿を描くならば、肉体もそのように変化して行って、その描かれた「場」の方向に落ち着こうとするんじゃないかと、こう伊藤君が書いています。まだこんなことは物理学で誰も言い出した人はたぶんいないと思いますが、着想としては実に素晴らしいものだなと私思いましたね。

仮にこれが間違っていたにしてもですよ、われわれに素晴らしい勇気を与えてくれますね、これは。多分間違っていないでしょう。

正しい形をどこまでも保とうとする力「場」

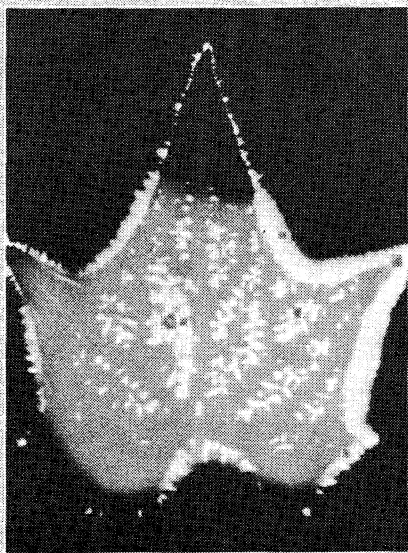
そこで「場」というものは一体どういうものかということ、写真で撮ったものがあります。これですね。(写真を示しながら)これは御存知のとうりキルリアン写真と言われるもので、オーラを撮影したといわれますが、これには楓の葉

がここに写っていますが、一枚の楓の葉の上側の葉をはさみで切ってしまったんですね。切ってしまったものを写したんですが、しかしやはりここには元の葉の形を表わすような光の輪郭がちゃんと写っているわけです。

これは本当のオーラじゃないと思いますがね。もっと別な何か電界の「場」における何かだろうと思いますが、私にもよくわかりませんけどね。その元の形が形成されていた状態を、そののとおりここには一つの光が表われてしまったということです。これはものすごい不思議なことです。考えてみれば非常に不思議なことであくまでも楓の葉というものが形成された場合は、これの正しい形をどこまでも保とうとするある一つの力の「場」がここに働いているはずなんです。力の「場」が……。これはフォース・フィールドと言えましょうね。やはり。

強烈なイメージを描けば癌も消える

人間の体もそうですよ。仮に癌になったとします。私のおやじもおふくろもどっちも癌で死んでいますから、癌がどんなものか知ってますけどね、私は癌にはならないですがね、特に私のおやじの場合は昔の話ですが、上顎癌という顔に癌が出たんです。これは恐ろしいですよ。顔がほとんどつぶれてしまつて、もう人間とは思えないような状態で、最後は悲惨な状態で死んだんですが、元は私のおやじは決して美男子とは言えないどっちかといえは相撲取りみたいな大男で、非常に不細工な顔をしていました。まあでっけりと肥えて相撲取りで前頭に見えるような状態でしたかね。それが見るも無残な顔になって死んだわけですがね、その場合でも、やはり元の健康体であった



キルリアン写真

高周波放電電界の中に置かれたカエデの葉。葉の先端が切ってあっても、そこにもとの葉の形の放電現象が見えることがある。あたかもそこに葉の生命力がまだあるかのように。

頃の顔の「場」というものは何か存続していたに違いないんですね。

したがって本人が自分はこんな癌で体が潰れるようなことになるはずはない。元々健康体だったんだから、そのような顔にあくまでも戻るべきだという強烈な想念を発して、強烈なイメージを描けば、その癌は消えて元の状態に直ったであろうと思われるんです。残念ながらそんな思想は私のおやじになかったものですから、そうはならなかったんですね。

想念の力で病気を治せると思わない地球人

ですから肉体を變形させる力、病氣などを特に消してしまう力というのは誰にもあるはずなんです。ただ惜しいことに地球人は病氣になったならば、これは自分の力で治すことは出来ないものであって、あくまでも病院へ行って何か物理化学的なそういう治療を受けて、そうして物理的に何かを變形させなくっちゃ治らないもんだと一般の人は思い込んでるらしくて、そのため自分の力で直そうというような、そういう想念を起こさないんです。まあ病院行ってみるとわかりますが、六十代そこそこでヨボヨボになっている人が多いですよ。

私はもう間もなく七十歳になるんですけど言うことですが、でもこうしてピンピンしているでしょう。私は十年前まで六十歳だったんですが、それは当り前ですがね。六十というのは還暦といいますがね。

ね。それで六十になった時に、「わしはこれで還暦になったか」と思って、「やつとこれでじいいの仲間入りができたな」と思ったんですが、その十年前の事はたつたほんの昨日のような感じがして、その頃の体力と氣力は、今、全く変わりません。だから早く言えば、私ほどに生命哲学、宇宙哲学を実践して、しかも自分の氣力体力を保っている人間はあまりいないんじゃないかという気がします。私自身が奇跡の一番良い例だというふうに私思いますね。

十年間がほとんど変わらなかったから、私はあと十年で八十になります、八十になった頃は今の私とほとんど変わらないうでしようね。そうして十年後にまたここにきて講演をやるかもしれない。十年前にあんなこと私は言ったけど、本当に全然変わらないうで、どつちかというように毛が生えてきたじゃないかというようなことで皆さん方が驚かれるかもしれません。

これは決して大きなことを言うんじゃないんでして、私は全くの自分の氣力あるいは信念の力、想念の力によって自分の体を支えています。私は完璧な健康体ではありません。私が完璧な健康体であったのは、昔戦時中に徴兵検査といたのがありましてね、身体の間々まで調べられますが、その時に全く完全な健康体だという証明をもらった頃が一番の健康だった頃です。

今は持病の固まり。ざっと数えただけでも四種類から五種類位の持病があります。しかし、こんなものはへでもありません。

せん。何ともないです。いずれ私が吹き飛ばしてやるというような、そういう気持ちです。

ちなみに徴兵検査は満二十才になると昔はいやでも受けさせられたんです。戦事中の頃でしたが、徴兵検査というのは完璧な健康体を甲種合格といえます。それから病氣も何もない健康体だが、身長体重胸囲のバランスが少し平均に達していないというのが第一乙種。それからあと少しづつ体の悪いのが第二乙種。そして悪い病氣が何かあれば丙種。丙種になったら非常に情けないものでしてね、日本男児の一番の恥だというわけで、丙種になった人達はもうこそそこそと逃げるようにして帰ったものです。

私は何だったかといいますが、私は第一乙種。完全な健康体だったのが胸囲が少し足りなかったんです。やせていたんです。

あの頃は土方をやっていたましてね、山奥で。私が土方をやっていたというのはちよつと信じられないかもしれませんが、本当なんです。それで重たいものを担ぐもんですから、ああいう場合は筋力は発達しますが体重は増えませんか、どつちかというややせ気味になるんです。

イメージどおりの出版社設立
UFOブームの到来

それで私は昔からとにかく不思議なことがあるんです。身近に非常に不思議なことが子供の頃からいろいろあったといふことは皆さん方に時々月例セミナーで

お話しするんですが、奇跡を起こす男というのとは実は私のことじゃないかというふうにも言えるんです。最も奇跡的だったのは私が田舎に住んでおりました頃、いずれは東京に出て行って、自分の出版社を始めるんだ、そしてUFO関係の専門誌を出して、これを全国に売り捌いて、日本中にUFOブームを起こすんだと、壮大な夢を持っておりました、そのまたイメージを描いてですね、田舎にいた頃から、小さいながらも事務所を構えて私は奥の方の社長の机に座って、少ないながらも社員が五、六人居て、みんな楽しそうに働いている光景をイメージとしてはつきりと描いたんです。

田舎にいた頃には高校の教員をやっていましたかね。その頃私が東京に出かけて行って、そんな出版社始めるといふことは資金もないですし考えられなかった事なんです。普通ならば考えられない事です。私はハッキリとイメージを描いていたんです。そうしましたら東京へ出て来て三年目にそれが実現したんです。思わぬところから資金一千万円ができてね、それで始めたんです。そしてイメージの描いた通りの狭いながらも事務所が私が奥の方の社長の机に向かっている。五、六人の社員が一生懸命に働いているというイメージの通りの光景が展開したわけです。

そして五年、私は猛烈に働いて、そうして「UFOと宇宙」という専門誌を発行しましてね、全国にばらまいて、第一次のUFOブームというものを発生させた、いわば仕掛人でもあったわけですがね。

印刷物の関係では私がやりましたね、それからテレビの放映では私と知り合いでもありましたあの日本テレビの矢追デイレクターですね、あの人がテレビで放映してその視聴覚のほうで活躍されて、両方がやったわけです。

そういうわけでしてね、私自身に非常に不思議な事がよくあるんですが、また自分自身でも強烈なイメージを描くことによって、相当なことを私が実現させてきているということが言えます。それ以外にも自分でわからないつまり因果関係のわからない、今の場合は因果関係がわかってますが、因果関係のわからない不思議な事が身辺にたくさんありますが、ある程度は月例セミナーでお話ししておりますけれども、昔この横浜へ来ました時に、不思議な事がありましたからちょっとお話ししましょうか。

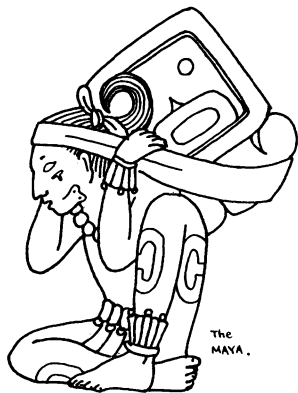
横浜の波止場での出来事

昔戦争が終わってからあまり年月が経っていない、私が二十七、八の頃で、まだアダムスキー問題を知らない頃だったと思いますが、大学の科目試験を受けるために日吉の校舎へ行ったんですね。そして試験が終わってから、横浜のメリケン波止場を見に行ってみようかというわけで、こっちの方へ一人でふらふらと出て来たわけです。

メリケン波止場というのは本当は神戸にあった波止場の名前なのですが、今はなくなっていますけどね。私はつきり横浜にもそれがあるんだと思って、

昔、淡谷紀子さんが歌った有名なメリケン波止場の歌を思い出して、何でもいっぺん見ておこうと思って出て来たんです。当時はまだ横浜の町がアメリカ軍に占領されていてましてね、町中がアメリカの兵隊だらけで、特に海軍の水兵が多かったですね。

私は人にあちこち道を聞きながら、波止場の方へ行くにはどっちの方へ行ったらいいのかわからないわけで、聞きながらずつと出て来たんです。それで人々があつちの方向だと言って教えてくれるものですから、その細い道を歩いて行きましたら、やがて米軍の衛兵がいる屯所といえますか交番みたいな小さいボックス型の建物がありまして、その前まで来たわけです。そうしましたら米軍の衛兵が四五名そこに詰めておりましてね。ところが私がそこを通りかかっても彼らは何も



言わないんです。普通ならやれ身分証明書見せろとか何とか、日本人の基地要員もたくさんいましたから、みんな身分証明書など見せてはいるんじゃないが、何にも言わないもんですから、私はそのまま大丈夫なんだろうと思って、どんどん中へ入って行きましたね。入って行っちゃって歩いて、まもなく波止場らしい所に来たものですから、その衛兵の立っていた所が、今で言えばどの辺りだったかさっぱりわかりませんが、波止場らしい所に来たもんですから、波止場に来たなというわけで喜んでおりましたところ私はがく然としたんです。

何と目の前に一個中隊の米兵がズラーと整列して将校らしいのが号令を掛けているわけです。いやーこれはとんでもない所に入り込んだ、米軍基地の真つただ中に私は入り込んだわけです。私も戦時中軍隊生活やっていますからね、そんな所に入っちゃ捕まらやエライめにあうという事はわかりますから、これはいけないと思つてすぐに逃げようと思つたんですが、走って逃げればかえって怪しまれるから、わざと悠々と歩いてですね、心の中はもう本当に早鐘をつくような思いで私はわざと悠々とゆつくり歩いて元の方向に来たんです。そしてあの米兵に捕まったらもうおしまいだと思いながら来ましたら、何と、もうその四、五名の米兵はいないんです。アメリカ兵はいなくて日本人の雇われ歩兵が一人自動小銃を持って立っているんです。

その人が私を見て身分証明書見せて下さいと言うから、実はそんなものはない

んだ、初めここに来た時にアメリカ兵が何も言わないから私は大丈夫だと思つてついそのまま中へ入ったんですと正直に言つたんです。

そうしたらエーツというような顔をしましたね。「もし見付かったら大変な事になりますよ」と言うんです。後で聞いたんですが、重労働三〇年とかいって沖縄へ送られるそうですね。そんなことになったら私は今GAPの会長としてここには来ていないはずなんです。それは後から聞いた話ですが、その人が大変親切な人で、「早く逃げなさい。走って逃げちゃダメですよ。ゆつくり歩いて逃げなさい」とか何とかそんなこと言つたと思ひますが、私は悠々と歩いてそれで助かつたんです。

不思議ですね、わずか十分位の間にもう米兵がいなくなつて、日本人の歩兵が一人になつていたんです。何かの力が働いたんじゃないかと思ひますがね、これは因果関係のわからないこととして、本当はあるんじゃないかと、わかりません。

親に感謝・和解してから UFO が接近

それからUコン誌の一二五号に、今度載せる記事でもう一つ素晴らしい記事があります。これは鹿児島県の会員で溜池みゆきさんという女性の方です。今三十半ば位で未婚身なんですがね、私会ったことはありませんが、写真で見ると大変美人です。

この方は化粧品品の販売の代理店を自分

の営業としてやっておられる方ですが、この頃はほとんど毎日のようにUFOを見るというんです。外へ出て上空に向かって出て下さいと呼び掛けるだけでもうどんどん出るというほどの素晴らしい体験をしている人なんです、これがひっきりなしにレポートをよこしますが、ある程度たまった分を去年、これも来たいたもんですから、十月発行の号から載せようと思ったんですが、なかなかスペースがなくて、載せられなかったんですが、今度四月発行の一二五号に載せます。

本当は宇宙的なカルマのあった人なんでしょうが、小さい頃からお父さんと非常に仲が悪くて、お父さんを憎みに憎んでいたわけです。お父さんというのが大変短気な怒りっぽい人で、特にその娘さんをしよっちゅうどなり散らして怒っていたらしいですね。

男親というものは女の子をかわいがるものですが、その逆だったようでして、非常な恨みを持っていたわけです。そのために随分いろいろ不幸な目に遭いましてね、そうなりや当然ながら決して幸せにはなりませんからね。いろいろ不幸な目にあったんです。その後気がついてこれはまず親に感謝の気持ちを起こさなくちゃダメだということに気がついて、お父さんに感謝をするようになった。そして、昨年の三月にやっとまあ正式にお父さんと和解してお互い仲良くなったというふうな頃からUFOがどんどん現われるようになったそうです。

非常に細かい図面やスケッチなどを書いてきましてね、それを載せますがね、

その内容は素晴らしいものです。

今ここで詳しいことをお話する余裕はありませんが、今度載せますから、お読みになればおわかりになると思います。とにかく人間というのは想念の持ち方によって自分の人生がどうにも変わるものだということはこれでわかります。

わけへだてなく創造主の子として尊敬せよ

まず何といっても親に感謝して親と和解をするということが一番重要だなということがわかるんですが、ある種の新興宗教ではそういうことを言ってますけれどね、やっぱりあれは本当なんでしょうね。なぜかといいますと、親というのはアダムスキーに言わせれば、自分をこの世に送り出した経路として役立ったんだということを言っています。アダムスキーの場合は親は自分を送り出すための経路として役立ったにすぎないんだというふうな言い方をしておるものだから、したがって中には誤解して、アダムスキーのあれはテレパシーの本でしたか、今でいえば「超能力開発法」ですね、第二巻の。アダムスキーは親孝行を教えない。親不孝を教えているというふうなことを以前言う人がいましたけど、これはちょっとおかしいですね、アダムスキーは本当に宇宙的な哲学を解いたのではありません。親に不幸なことをせよとは何も言っていないんです。ただ自分の親だろうがよその親だろうが全く同じように創造主の子として尊敬せよと言って

るわけですね。

感謝の「場」で環境が変化する

親に孝行するということは、やはり自分を生み出した経路として役立ったわけですから、それなりの役割を果たしたわけで、それに対して感謝をもって仕えるべきではないかと考えられます。それから何といっても親が自分が小さい時にいろいろ面倒見てくれて、下の面倒まで見てくれて、育ててくれたわけですよ、それはやはりそれなりの親としての愛情があつてのことですから、それに対して愛情でもって報いなくちゃいけないということが十分に考えられます。

そこで結局、家の中で最も重要な人物であるその両親に向かって感謝の想念を起こしますと、たちまちそれは一つの大きな素晴らしい、さっきの話ではないですけど「場」が作られる。フォースフィールドが。するとその通りに環境が変化してくるわけです。そう考えられるんですね。

伊藤君の説をそのままここでこれは絶対に正しいんだというわけで、人間の想念によって「場」が作られて、そのとおりの環境が変化するんだということを絶対的な真理として、今私がここで断言するわけじゃないんですが、まあある程度考えられます。環境は物質ですからね、家庭環境は物質ですから、物質としてやはり変化をさせるためにはそういう想念によって、想念波動で一つの理想的なイメージを描いて、それが「場」を形成す

るんだということは、これは十分に言えるんじゃないかと思うんです。

癌を治す三つの方法

物理を研究しているものは何かが発生する前に必ず「場」がまず存在しているというふうに見えるんだということでしたから、やはり伊藤君の説も間違っていないでしょう。ただ彼はちょっと飛躍してしまっていて、奇跡を起こすのはまず自分の想念によって、その奇跡が起こった状態のイメージを描けばそれが「場」になるんだということを仮説として言うるわけです。

でも、仮説というのは重要ですからね。どんな学問でも最初は仮説を立てて、それが段々実証されていくわけです。したがって仮説を発表することはなにも悪いことではないわけですし、それは堂々と勇氣を持って発表すれば良いわけです。さっき癌の話を出しましたが、癌を治す方法が三つ程あると思うんです。これは私の考えですがね。

一つは玄米菜食。これで治ります。実際に治った人はおるんです。正しい方法を知っている指導者につけば玄米菜食でかなりの末期癌が治るんです。これは西洋医学とは違うんですが、やはりそれなりの何かの物理学的な原因があつて、その結果治るんだらうと思います。どうですか仲山君？ ここには専門家がたくさんいますからね、私もあんまりいい加減な事言えないんです。そういう事はまだ学校で習ってない？ 彼は西洋医学の学徒

なんですがね、いずれは医学博士になるでしょうが、まだまだ西洋医学でそこまでは玄米食までは取り上げられていませんからね、ちょっと具合が悪いでしょうね。

それから二番目の方法は、丸山ワクチン。これは医学で相当言われてるんですが、かなり治ってるそうですね。丸山千里博士が開発されたものです。

三番目は宇宙哲学ですね。特にイメージを描き、強烈な信念を持ち続けるというところ。これによって癌だろうが何だろうが、どんな病気で治るはです。ですからイメージを描く力というのは非常に重要な力を持っているんですが、昔私が読んだ本で、癌を治したアメリカのある牧師さんの話をちょっと読んだことがあります。何でも癌がある場所に発生した。そこで強烈な祈りによって、それをおぼらった。祈りといいますが、要するにそれは強烈な反復思念でしょうね。基督教ですから祈りというんですが、あれは反復思念です。

ところが今度は別な所にその癌が転移してしまっただけで、また集中的に強力な思念法によって、その癌をおぼらった。ところがまた別な所へ転移したというんで、何でも四〜五回転移したそうですが、最後は完全にそれを撲滅して消してしまっただけという実例を、昔私は何かの本で読んだことがあります。(自己治療力の医学 光文社)それに類するようなイメージ法によって、奇跡的にいろんな病気を治した実例は随分ありますよ。

なぜ万病治療器は出回らないか

科学的な方法つまりサイエンスの方法によって確実にどんな病気でも治る機械があります。これを私が売り出せば億万長者になれるんですが、私はその機械を手に入れることは出来ませんから、お話をするだけなんです。これはアダムスキーが伝えておられますところの、万病治療器。スペース・ピープルがアダムスキーに与えたという万病治療器です。

どういう仕掛けになってるかというと、特殊な高周波の波動を放射して、それを身体にあてるだけ。長時間あてるんじゃないくて、ほんの数分間あててそれを二〜三日繰り返すだけでも癌だろうが何だろうがどんどん治るといふような機械があるんだそうです。

これをアダムスキーは与えられて、それをニューヨークのベルビュー病院に寄贈したそうですが、病院ではそれを公開しなかったというので、一般には出て来ないんです。今度アダムスキーの記事を載せますがね、新しい記事を。その中にその万病治療器が出てきます。これはすでに当時アダムスキーが話した、これはカンザスシティで講演をやった後の質疑応答で話しているんです。あのミズリー州カンザスシティですね。

どういふ事を言っているかといふと、この万病治療器はもう地球人が開発しているんだそうです。当時です、一九六〇年代の初め頃だと思いますが、すでにもう地球人が開発してるというんで

すね、後少なくても五〜六年経てば一般に出回るだろうといっています。それがいまだに出て来ない。全然出て来ません。誰かが開発していると思うんですが出て来ません。

なぜ出て来ないか理由がおわかりでしょう？ そんなものが一般に出回ってせいぜい百ドルから二百ドル位で買えるようになったら世界中のお医者様が失業してしまいます。病院はつぶれる。大変な経済的な混乱が起こりますから、そこは当然のことながらこれは政府が認めないですね。売り出す事を。

ですが、いつかは出るでしょうね、万病治療器は。皆さん方が老人になった頃は、もうそういうものは出ていると思いますよ。

テレパシクな感知力とイメージ力

根本的にはこの宇宙には病気がなんてものは存在しないんです。宇宙の創造主は人間を病気にして苦しめてやろうという、そういう意志を持って人間を造り出したはずはないんです。これは私が創造主から直接聞いた訳じゃないんですが、あらゆる面から見てそういうふうには言えます。宇宙の創造主は人間を幸せにしよう、人生を楽しませようにしたのか言いがたいことは、どうしてわかるかといふと、地球上の状態ではちょっとわからないんです。地球は病人だらけですからね、それこそアダムスキーが伝えた別な惑星の金星とか土星あたりのあの天国のような状態ですね、これを

見ますとわかります。

見るといったって、われわれは地球上に生を受けて見に行った人はそんなにたくさんいないです。実際はいるようすがね、なかなか実態が現実には目の前で実態を見て確かめることは出来ませんが、そこはアダムスキーが伝えてくれたんですが、それから、これは事実であるということがはっきり自分で関知できるかできないかに掛かっていますね。

出来る人は幸いです。イエスが言いますところの「見なくても信じることで出来る人は幸いです」といふのは、これは当てはまりますね。

一昨日も例の秋山氏と話し合ったんですが、ある重要な問題について話したんです。ここではちょっと漏らすわけにはいかないんですが、とにかくあの方にいふのは「異星訪問奇談」という本でもって私が書いて出しましたが、あれを読んでこれはものすごい事実だといふので信じると、なんだこんなインチキがというふうには頭から否定する人、いろいろあります。

これはこの間の東京セミナーで話したんですが、秋山氏の体験は、ものすごい事実です。あまりにも驚異的な事実であるから、一般の人が容易に信じないでしょうね。それからまあアダムスキーもそうです。

私自身もいろいろ体験がありますが、話しません。話しても信じてもらいませんからね、話さないんですが、時々あちこちでスペース・ピープルに出会うとい

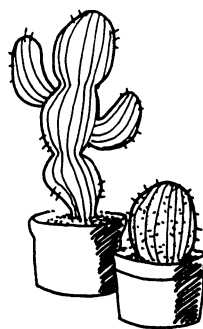
うようなことはたまにちよこつと話しませぬ。酒を飲んで酔いが回った時は話しませんよ。月例セミナーの時だけちよこつと話すだけです。

ですからね、皆さん方のテレパシクな感知力というものがもう一つ非常に重要であるということなんです。イメージを描く力も重要ですが、その一方ではテレパシクな感知力。イメージを描くのはこれは外的な力ですね。外部に何かを発生させようとする力。それから感知力はこれは外部からの力を自分で受けて、感知する力ですね。この二つが非常に重要です。

テレパシクな感知力の応用で成績Aに

われわれは普段日常生活でテレパシクな感知力を働かせなくちゃいけない事はさらにあります。例えば何かの仕事でこれはどうしたらいいだろうか？ こういうふうにはやれはうまく行くかな？ いや別にこういうふうにはやった方がいいだろうとよく考えますね。そういう場合にテレパシクの力を働かせて、こうすれば良いんだという印象を強く受ける。そしてその通りにやるといふふなこの応用力です。

これも私がちよこいお話ししていることですが、昔、大学の試験で、中国文学史の試験を最後に受けさせられたんです。これは大学側の事務局が勘違いしまして、何を間違えたか知りませんが、私は一二四単位を十分満たす以上の、確



か一二八単位くらいまで私の計算では取っていたんです。

ところが連絡がありまして事務局から君の単位は足りない。一二四単位を満たさないから至急に中国文学史の試験を受けよ、テキストは学校から貸与するからそれを勉強せよといって来ましてね。そしてテキストを見れば、中国文学史というのは大したことあるまいと思っていたら、何でも三五〇ページもあるような大型の本です。これを一ヶ月で勉強しなきゃならない。

こりゃとても大変だというわけですね、こんなもの一ヶ月で丸暗記なんかできせんからね、これは一つどういう問題が出るか私がテレパシクな感知力によって当てようと、俗に「やまをかける」と言いますが、これでジャツと心を静めたくて決まりました。それでジャツと心を静めたんです。中国文学といひますのは韻文学つまり詩ですね。詩の文学と、散文学、

小説ですね、この二つに分けてどっちが出るかということ自分で考えたんです。考えるよりも感知力でもって当てようというわけです。どうも詩の方だという印象が非常に強かったわけです。

だいたい中国文学は詩が本命ですからね。先生はその裏をかくて散文の方を出すかもしれない。だから本命だといったって何がどうなるかわかりませんから、うかつには決められないんです。

ところがどうもこれは詩の方だろう。詩でもですね、特に唐時代のあの頃は最も有名な詩人が出た頃ですからね、あの頃を主体にやったらほうがいいなという印象が強かったものですから、主にそれを主体に勉強しまして、暗記してですね、学問はみな暗記ですからね、そうして更にずっとさかのぼって西暦前の楚辞という文学があったんですが、その頃からずっと現代に至るまでの韻文学を大体丸暗記したんです。

私は独特の久保田式暗記術というのを身につけておりましたね、それで暗記しましてね、そしてもう万全の体制を整えて試験場へ行きました。そうしたら出ましたね「中国文学の韻文学について知るところを記せ」と。雄大な問題です。

大きな問題が出るほどいいのです。これこれというわけで私は一時間かかって答案書いて、表側に書き切れなくて、そして裏側も一杯書いて一時間かかって出しましたところ、成績Aという、あれはAの上くらいだったと思います。それで合格したんです。本当はそれを受ける必要はなかったんですが、でも勉強して

良かったと思います。何を勉強したって無駄になるものは何もないんです。みんな役に立ちますからね。これはやはり私が一種のテレパシクな感知力によってうまく行った例です。外れたらエライことになりますからね。

イメージ法で会社就職

そういうふうな、イメージを描いて奇跡を発生させる。あるいはテレパシクな感知力によって物事を当ててうまく行くというこの二つの面が重要です。今まではGAPではイメージを描いて実現させるということはかなり昔からやって来ていますが、これはかなり一般化してきまして、今ではスポーツの分野でもイメージトレーニングというのをやっていますね。

今は巨人の監督でありますあの長島監督が、昔巨人の選手だった頃に、なかなか一時打てないことがあって、その打てる方法をイメージトレーニングで教えた指導者がいるんです。それによってまた立ち直ったという話もありましたね。

ところが、最近またGAP会員の北海道の人から素晴らしい体験記が寄せられました。これは岸田宏樹さんという学生さんで、この春卒業するんだそうです。

去年の夏頃から就職活動始めていてある会社に決まっていたんですが、何分ご承知のように不景気ですから、それは取消になったそうなんです。そこで別なもっといい会社を、自分にとっては夢のようないい会社、到底逆立ちしても入れ

そうもないような会社だったそうですが、そこへ必ず入るんだという強烈なイメージを描いて、そして大宇宙瞑想をやったそうです。大宇宙瞑想をやると同時に、そのイメージ法によって、もう確実にその会社に入ったというイメージを描いていたから、なんと採用通知が来たというのです。夢のようなことであったが実現したという報告がありました。

これは今度の一二五号の投稿欄のしまいの所に載せますからお読みになるとよろしいでしょう。ちよっと文章を省略してありますけどね。

奇跡を発生させることは
難しいことではない

その他の実例を上げますと、随分昔からいろんな実例をGAP会員の方からも聞いておるんですが、今はもう一般的にイメージを描くことは重要だということが大体あたりまえになってきましたね。従ってこれは私の専売特許でなくなつたものですから、今はあんまりこれを大声で言つても皆さん方にはピンと来ないかもしれません。そういう指導をする指導者があつちこちに現われてきまして、そしてまたテープなどもあちこちで売りに出されていますからね。

ですが、これはやはりあくまでも絶対的な方法ですから、これを一つ応用してみて下さい。イメージを描く。そしてその伊藤君の説によりまして、まずそれでフォースフィールドつまり「場」が形成してしまふ。そうするとその「場」のと

おりに物事が納まっていつて移動する。そしてそのとおりに実現するというふうなことになるでしょう。

ですから、奇跡を発生させるということとは別に本質的に難しいことではないんです。その理論がわかつておつて、それを忍耐強くやればよいわけで、それだけのことで。特殊な人だけにやれて、他の人にできないというふうなものではありません。

今までのところで何か質問はありませんか？ 聞いてみたいというふうな事。後の質疑応答の時間でも宣しいんですが、今その記憶が薄れない間に質問を出されるにはよろしいんじゃないかと思ひます。（会場から「場」の理論について、もっとと詳しく知りたいとの質問が出る。）

「場」とは何か

これはね、伊藤君のこの記事の中に書いてあつた、これもあまり詳しく書いてないもんでね、実際のところ伊藤君にもあまり詳しく説明するほどのまだ理論付けがしてないんじゃないかと思うんです。ここに書いてある所をちよっと読んでみると、「場」とは何かという小見出しの所で、こういうふうに書いてあります。「場」というのは何かを少し説明しましょう。私たちはいつも地球の重力に引っぱられ、地面にへばり付いていますが、もし月の軌道に行くことができたら、その力のはるかに小さくなってしまひます。いる場所によって力の大きさは力の方向が違つてきます。そこでその場所

に行つた場合、どの方向にどれくらいのが働くのかを知ることが必要になってきます。この「場」すなわち英語でフォースフィールドはそれを知るためにその場所が発生する力の可能性を表現する方法として使われている考え方です。」

ここで「場」を説明するための数式が出ていますが、これは地球の重力場を表わす数式で、ちよっと省略しますと、「どちらにしてもいずれか一方だけでは力は働きません。その場所に同じ種類の性質を持った物があるときに、その物に影響する力の働く可能性をあらわした物が「場」です。もう少し違った言い方をすれば、空間の性質を表わした物が「場」であるといえるでしょう。」

ちよっと抽象的な言い方なだけでどういうふうに説明してあります。

だから空間の性質を表わした物が「場」だということは、空間の中に何かの物体を置いた場合にその物体の形あるいはそのものの存在感を表わそうとして一つの原形としてのパターン（元の形）があつて、そうしてそれが一つの「場」を形成しているんじゃないかと思ひます。そのことに気付いていたのははるか古代のギリシャの偉大な哲人であつたプラトンです。

イデアとは「場」か

プラトンはイデア論というものを発表したんです。このことを考えてみれば、あのイデアというのはどうもあれは伊藤君の言う「場」のことをいつてるんじゃない

ないかという気もするんです。

この前も総会で私が説明しましたように、プラトン哲学というのは実に偉大なものです。あれは現代でも生きています。でしてね、特にあのイデア論というのは実生活で生かせる哲学ですが、残念ながらもうあれは死物のように扱ひられていませんが、そんなもんじゃありません。だからこの伊藤君の記事はあくまでも仮説であつて、彼自身があんまり詳しいことを書いたからかえつてたかかれるかもしれないということ、まあ遠慮しながら恐る恐る書いたというふうなそんな感じもするんです。

未知の知識の波動が
空間に流れている

だからこの記事を發表して好評だったら次の第二弾第三弾を彼にもっと詳しく書いてもらつて載せてもいいですね。そんな重大なことを誰にもわかるように詳しく説明することはそれは無理でしょう。ここでは「生命と物質と超能力」という題にしてありますが、こんなところもちよっと詳しく説明してくれりゃいいなあと思ひます。ちよっとあつちこちあるんです。

これもこの前、東京の月例セミナーで話したことです。人間というのは説明の仕方によつて、どんな偉い大学者が唱えた難しい説でも必ずわかるんです。絶対にわかるんです。どんなに偉い学者でも、あるいは普通の人でも知的にはそ

んなに差はないんです。私に言わせればですよ、そんなに差はありません。たまたま偉い学者の人は、一種のテレパシクな能力によって、空間に満ちているまだ未知の知識をキャッチしたに過ぎない。未知の知識の波動が空間に流れていると思うんです。それをキャッチしたんだらうと思うんです。そういう説はまだ別にあります。

例えば百四目の猿という理論があるのは御存知でしょう。九州の幸島という島があるそうで、これは実際にあったことです。そこに猿がたくさんいたわけです。そのお猿さんたちはサツマイモを生でかじるわけです。ところが掘り出したやつですから土が付いているわけです。それをどれかの猿がちょっと頭を働かせて、海水で洗って食べることが覚えたら、それで塩味が付いてしかもきれいになるというんで、他の猿が真似をしてみんなどんどん海水で洗うことを覚えた。そして洗う猿の数が大体百四目位になった頃に、今度は遠い所にいる他の土地の猿までが同じ事をやり出して、海水で芋を洗うようになったというんです。

不思議な事でしょう？ これは何か猿の持っている想念波動が遠方へ流れて行って、それを他の遠い所にいるお猿さんたちがその波動をキャッチして、そういうような知恵を思いついたんじゃないかということなんです。

それに類するような事はいろいろあります。例えば何度も言うようですが、微積分の原理を発見したのはニュートンかライブニッツかどっちかということでは

争の的になってますが、あれは大体同じ頃に発見していますからね。どっちであっても構わないんです。われわれにものすごい影響を与えた数学ですからね。何といっても微積分というのは応用数学の王者ですからね、あれをやれないことにはもう設計も何も出来やしない。

その理論を最初にニュートンが発見したかライブニッツが発見したかということなんです。ライブニッツは偉大な哲学者でもあったんですが、おそらく空間に流れているその微積分の原理の波動を二人がほとんど同時にキャッチして発表したというふうには考えられないんです。そうでしょう。もし誰かの人間の知恵によって、純粹な知恵によって、あれが考え出されたとすれば、ニュートンならニュートンしか考えつかないはずですが、それをドイツの偉大な科学者がやはり同じような原理を、はるか別な所で考えついているわけですから、何か同じ原理の知識が空間に波動として流れていて、それをたまたまキャッチするんだと、これが新しい学問の理論を発見することになるんだというふうには考えられるんです。

グリセリンの結晶化と想念波動

それからやはりこの記事の中で伊藤君が書いていますが、グリセリンという物質がありますね、あのグリセリンは液状です。これは絶対に固まらない。言いかえれば結晶化しないものだと言われているんですが、ある研究所で、それが偶然に結晶化したんです。それで学者たちが

驚いたんです。そうしたら不思議なことに、他の国の他の研究所でもグリセリンが結晶するようになったそうですね。

大変不思議です。この理由を考えてみますと、やはり最初に結晶化したその化学の研究所の科学者達が、グリセリンは結晶することがあるんだという想念波動を世界中に発したものですから、それによって何かの影響を受けたグリセリンが、やはりよそでも結晶するようになったんじゃないかという意味のことを伊藤君が書いています。

そうかもしれないし、あるいはまた別な理由があるかもしれないんですが、まあ伊藤君の着目としましては素晴らしい着目だと思いますね。

敵に傍受されない無線通信

想念波動といえはまだ科学界ではあまり認められていないようですが、実はアメリカでは一九五八年に原子力潜水艦ノーチラス号を使って壮大なテレパシーの実験をやっています。これはもう何度も私が記事に書いている事ですが、今度の一二五号の巻頭言でもうちょっと詳しくその事を書いていきます。お読みになるとわかりますが、アメリカの内陸部にいる一人の学生さんが、例のゼナークードを見て、その図形を波動として送るわけです。原子力潜水艦ノーチラス号は、鋼鉄で覆われたもちろん堅固な船ですが、それが二キロ離れた海の中で沈んでいるにもかかわらず、その中に乗っていたジョーンズという海軍中尉が受信者とな

ってその図形を受信して、そうして一六日間実験やったというんです。それは極秘のうちに行なわれて最後にその図形をスミスという送信者の学生が実験を行なった所へそのジョーンズ海軍中尉が持つて帰って、そうして責任者に封をした解答を見せたんです。そうしたら七〇パーセント的中していたというんです。二キロ離れた。確実にこれは人間の想念波動というものは存在するものだということが立証されたということです。

なぜそんな実験をやったかといえますと、いわゆる電波による無線通信は敵に傍受されるおそれがあるというので、アメリカ側が、敵に傍受されないテレパシーによる実験を始めた方がよいというふうに考え出してから、そのために実験が始まったというんです。

ものすごく進歩的ですね、アメリカというのは。すごいですよアメリカの科学の進歩性。

遅れていた日本

日本は後を追っかけて、そうして出来たものを取り寄せてはそれを分析して、もうちょっと良いものを作ろうとして、改良したものを出しているのが日本の姿であるといえますが、まあそうでもないです。すげえね。

実はテレビの今使われているアンテナですね、水平にこう枝が付いています。あれは戦前に日本人の科学者の八木博士が発明した八木式アンテナといわれているもので、米軍が占領して日本に来た時に

あのアンテナを使っていたそうですね。そしてそれにヤギという文字が刻印してあったもので、日本人がビックリしたというんです。

彼らはそういうふうに敵の日本人だろうがなんだろうが優れたものはどんなに取り入れていたわけですか。あの大戦中ですよ。

一方日本はどうかというと、もう竹槍でもって敵を突き殺せという訓練ばかりやっていたんです。科学的な考えがまるで見えません。まあそれは人殺しの造語ですから、あまり言えないんですが、戦事中私も軍隊にいましたから知っていますが、これも少数の人に話していますが、あの太平洋戦争中、日本陸軍が使っていた鉄砲ですね、小銃。これは三八式歩兵銃というのが主体になっていました。三八式歩兵銃といいますが実はあれは日露戦争で使われた銃なんです。明治三八年に改良されたライフル銃ですよ、それを何と昭和二〇年八月一日まで日本軍が使っていたんです。

あれはもうなってるかといいますが、私が松江連隊にいた頃にあれを一丁持つてましたから知っていますが、ライフル銃としては優秀です。弾を五発一辺にガシャッとか入れて、そこからコウカンといわれるレバーですね、それを引っ張ってカチャカチャとかやる。そのときは銃を肩へ当てて、ポン。また降ろして、ポン。

こういう撃ち方をやっていたんですが、その間にアメリカ軍はどうかというと自動小銃を発明していて、もう肩から一々

降ろさなくても引金を引くたびに弾がどんどん出て来るんです。機関銃と同じです。そんなものを持って来たんですから戦争にならないですね。全然ダメです。

でも日本軍は、精神力でもって世界一勇猛果敢な死を恐れない軍隊でしたから、最初は景気よかったですね、段々やられてしまっていて、しまいはコテンパンにやられたんですが、明らかにあのような科学的な違いがあります。今のアメリカは知りませんが、偉くアメリカを褒めるようですが、実際にそうなんだからしょうがないんです、これ。

それでアメリカというのは銃暴力がびこって、国がもう荒れ果てた随分汚い国だということに日本人はそういうイメージを持っているようですが、そんなことはいいですよ。私は実は二月に南カリフォルニアへ三人連れで行きましてね、今日来ています田中淳が運転して、加藤君と、二人が助手として行ったんですが、もうカリフォルニアの道路はどこを歩いてもゴミが全然落ちていない、ものすごくきれいです。

それはなぜかといいますと、ゴミ一つ落とせば千ドルですよ。そんなに厳しいことをやっていますから、それでゴミがないんです。日本もあいうふうになりゃいいんです。日本の行楽地へ行くとゴミの山になっているでしょう。あいう所であうんと罰金を取って税金の変わりにすりゃいいんです。

税金で思い出しましたがね、三月一五日締切りで所得税を払う確定申告というのがあります。これは一匹狼で仕事をし

ている人、あるいは自立して営業をやっている人は皆申告して、そうして自分で計算して所得税の金額を割り出して払うに行くわけですから、みんなはどういうふうにやるのか知りませんが、皆さん方かなり高額な所得税を払っておられると思います。私も一匹狼ですから行くわけです。

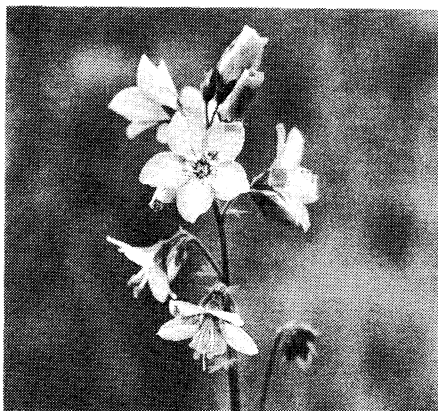
世界五十四億ですか、人間がいるそうですが、税金を払いに行くことはみんな嫌なんです。あれは捨て金ですからね、元へ戻って来ない。生命保険の掛金ならまだ死んだ時にお金をもらえますが、あの税金ばかりは戻って来ない。だからみんないやいやながら払うに行くでしょうね。税務所と聞いただけでもう鬼の住むような所だと思わしめませんが、たった一人だけ、ものすごく喜んでどうぞこの税金を取って下さいといつて納めに行く人がいます。この世にたった一人、誰かといえますね、私です。私が税金納めに行く時は本当にうれしく思います。わずかなお金ですけどね、税務所に行く時は「これが国のために役に立つんだ」と、これは大変素晴らしいことだ」と思っています。寄付ですからね、税金というのは。国に対する寄付ですから、自分はこれで寄付をして多少とも国のために役に立てば、これ以上のことはないというわけで、私はもう喜び勇んで行きます。

そういうふうに行っていますとね、必ずいい事があるんです。自分自身に。いやいやながら、しょうがないとかブツブツ言いつつながら払うに行く人は大抵よくないことになるでしょうね。

大体そういうわけで、まだまだ話したいことが山のようにあるんですが、時間の都合もありますからね、これくらいにしておきましょうか。

大熱弁を振りたいと思ってやって来ましたが、風邪気のためにあんまり熱弁にもならなかったかも知れませんが、もしもって何かお聞きになりたい事がありますならば、後でまた質疑応答の時にでも出していただければと思います。ただし普段、長い質問を書いた手紙を私にこされまして、普段私は超多忙でして、とても長く返事を書く暇がありませんから、それはちょっとご遠慮いただければと思います。こういう時が絶好のチャンスなんです。お互いに話し合いができるわけですからね。

まあ私としては、百才まで現役というつもりで頑張りますから、皆さんがたも一つ私より先にあの世に行かないで、大いに頑張ってお互いにく元氣よくこの活動が続けてですね、そして宇宙哲学を実践されて、素晴らしい人生を歩まれることを私も心から期待しております。どうもありがとうございます。



私が体験した万物一体感と UFO目撃



千葉 常男

十年前に、札幌にいつて営業の仕事をしていた頃の事です。根雪も融けだしてタンポポが咲き出す春の北海道は、とてもすがすがしく、みんな生き生きと活動し始めていました。そんな五月のある日、仕事をするまえに適当な野原で少し休んでいました。そしてボンヤリと目の前の木や草花を眺めながら、ジョセフ・マーフィーの著した本の内容について考えていました。

「マーフィーの百の成功法則」や「眠りながら成功する」などの本を読んでいたのですが、理解出来ないでいたのです。

必要なものは用意され全部ある

マーフィーの説いたイメージの力と信じる力や自然治癒力の、大いなる力などについて理解しようと考えていました。

どうして願望をはっきりとイメージしたり、実現した状態を実感して、信じて疑わなければ、やがてそれは実現するのだろうか？ 自然に治癒するその力とは？ などと考えていたときです。ボンヤリと見ていた前方の木にふっと関心がきました。そしてこの木について考えてみることにしました。この大きな木はじめは小さい種つぶから、こんな大きな木になったのだなと何気なく思いました。その時ハッと気付いたのです。この木は小さい種子のときからこんな大きな木になるイメージがあったのだという事に気付いたのです。

小さな種子のうちには既に成長し大きな立派な木になり、花を咲かせ実り、ま

た種子を大地に落して成長させて永遠に繁殖し成長する未来が既にあることに気付きました。そしてさらに驚いたことに、木の生命の生長に必要なものは既に用意されて全部ある事に気付いたのです。そして全てが共存共榮し奉仕し合っているではありませんか。

空気があり、太陽があり、水があり、大地には養分があり、風、光熱、雨、草、ほかの木、動物、鳥、虫、人間、この木の周りの全ては木の生長に必要なものであり、その全てが既に用意されてあったのです。空気について考えてみると空気は、この木に炭素を与えて酸素をもらい人間や動物に酸素を与え炭素をもらって奉仕しています。空気は生命の生長のために存在しています。あらゆるものがそうなのです。

すべてが生長する生命の一部であり生命である。万物すべてがつながっていて奉仕し合っています。生命は健康であって死ではない。全てが生命であるから死はなく病もないのだ。そして生命は喜びであり、喜びに向かっているのだ。一つの生命である万物は一つの意志が働いている。その一つの意志はわかり知れない英知であり、パワーであります。私は心のなかで叫んでいました。「一つだ、すべてが生命でありひとつだ」と。その時、すっかり忘れていたアダムスキーを思い出しました。そしてこの木を人間に当てはめて考えました。

小さい種子はイメージであり、大地は潜在意識であると。木には養分を根から吸収して全体へと運ぶ管があります。こ

の管を切ったら木は枯れるでしょう。木は管を通して養分を吸収するなら、人間は信じることによって、生きるために必要な物事が実現するのです。不信、疑ぐったりするものは、ちょうど木の管を切った様なものです。養分は吸収されません。つまり物事は実現しません。信じるということは、よく知ることだと思ふ。よく見て知ることだと思ふ。私は生命の生長に必要なものは必ず用意されていて与えられるという事を自然を見て知りました。

一〇〇パーセント信じる

事実を見たのですから疑うことはできません。信じるということとは少しでも疑う所があったなら、それは信じたことにはならないと思います。真っ白い紙に小さな黒い点があれば、それは真っ白い紙とは言えません。信じるということとは百パーセントでなければならぬと気付きました。以上のことに気付いた私は、早速その日の仕事に応用しました。つまり希望している最後の状態をイメージして実感して、これは既に未来において実現した、私はただそれに向かって歩いていくだけである、と。心の中で言ってしまう。そのことを忘れ仕事をしない。仕事といっても一件一件訪問して歩く営業の仕事です。

途中で疑問や不信に思えてきたら即座に否定してまたイメージを描いて最初のとうりに繰返しました。すると最後の最後に、希望が実現したのです。契約が取

れたのです。お客に喜ばれて。私の考は間違っていないかと大いに喜びました。もうあきらめる寸前に実現したことは、決してあきらめなければ実現するのだという教訓を学びました。あきらめてしまうということは、本当に心から望んでいなかったということになります。本当に心から望まない者に、自然は与えないでしょう。このような法則を知った私は、仕事で順調に好転しました。

光り輝くUFO目撃

やがて事情によって岩手の実家へ帰ってきました。帰ってきてから、アダムスキーの本を読み直しました。そして毎日UFO観測するのですがちっとも現われません。なんだろうと自問自答している、自分は心のどこかでUFOの存在やスペース・ビーブルについて疑問に思っていることに気付きました。それで、その事を信じるにはアダムスキーのUFO同乗記を何度も読み返し、とうとう百パ

ーセント信じるようになりました。するとどうでしょう、毎日夢のなかにUFOが出現するのです。そしてまもなく遂にUFOを実際に見てしまいました。

会社の帰りでバイクに乗っていました。六時前です。九月始めの六時頃は星が光るにはまだ早いのに、大きな星が一つ出現していました。するとその星はゆっくりと動き始めました。そして私に向かってだんだんスピードを上げて落ちてくるのです。私はビックリすると、その星は停止しました。そして角度を変えて西から東へと水平に飛行して行きました。その時の大きさは、バレーボールほどに大きくなっていました。ものすごく光り輝いていました。色は青と緑の中間色でした。この時大いなる感動とともに私が感じたことは、スペース・ビーブルは私の心を既に読み取っているということです。

この時以来、私は真面目にアダムスキー哲学を学ばなければならぬと思いました。

出会い

匿名

家内と私とのおもしろい出会いについて記します。

もうだいぶ前の話なのですが、私たちはGAPの月例会で知り合い、結婚しました。最近そのようなカップルが増えてきているようで心強く思っています。

さて問題は、出会う一年前にさかのぼります。家内がGAPやUFOについて知ったのは出会う二、三ヶ月前なので一年前には白紙の状態であったのですが、そのころオーラらしきものが見えたり正夢をよく見たりと感性が鋭くなっていったようです。特に正夢は恐いほどよく現実化したようで、翌日の光景とか今度の転勤先とか火山の噴火とかを予知していました。

その夢の形態が興味深いのですが、紙芝居のように静止した映像に男の人の声で解説がつくのだそうです。例えば、火山の噴火の夢であると、自分がテレビを見ている状態が映りそのテレビに火山が噴火した光景が描かれていて「これは火山の噴火の模様である。」と解説がつくわけです。そして実際に全く同じ光景が現実化するという具合です。

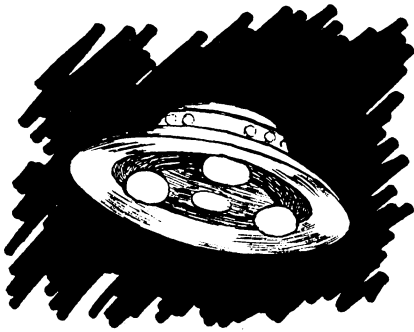
このような夢の中に、ある会合に出席している光景があり、その内の一人に対して解説の声が「この男と結婚する。」と述べるという夢がありました。それから約一年経ったころ、街に直販でおかれ

ていたUFOコンタクトイーをたまたま目にしてイエスの記事にひかれて興味を持ち（そのころ誰から教えられた訳でもないのにイエスは宇宙から来た人ではないかという想いが生じていたそうです）、月例会に出席することになりました。すると驚いたことに夢で見たのと同じ人間がその例会にいたというわけです。

つきあいだして結婚の約束もしてからその話を聞いたのですが、この話で興味深いことの一つは、その夢を見たときに私はどうしていたかです。そのころ私は学生だったのですが、その時行なっていた研究を見限って学校を退きしばらく一人で学問をやろうともくろんでいたところでした。従って一年後にその月例会に参加し家内に会う可能性は非常に小さかったはずなのです。最終的には学校に残ることになったのですが、あの時の心の迷いにもかかわらず人生の進路は決まっていたということなのでしょう。あるいはセンスマインドがあはだったということでしょうか。

いずれにしても一年も前にその例会に行くことが（私の選択にもかかわらず）決まっていたらしいことは驚くべきことです。時間とか空間とかは宇宙の意識からみると全く違ったものに見えるのだということを実感しました。

ところで、我々是一緒に暮らすことになったのですが、結婚とともに家内の正夢の能力はかなりしほんでいったみたいです。どうやら、せっかくの彼女の能力を私が中和してしまったようです。頑張らねば。



今自分が 感じること

高木 伴幸

僕がはじめて「アダムスキー」と言う名前を知ったのは、僕が小学生の頃です。僕は幼い頃、ある晴れた日に、父親と一緒に夜空を眺めたことがあります。そのとき生まれて初めて見た流れ星にとりつかれて以来、ずっと星や宇宙のことに興味を持っていました。そして読んでも理解できないような天文学の本や、天体観測の本を、それほど深く読みもしないのに、ただ買ってきて、ページをパラパラとめくることで、将来は自分は天文学者になるんだ、と単純に考えていました。そして暇なときには、何となく本屋に行っては天体のコーナーで立ち読みをしていました。

しかも鮮明だったからです。そのとき僕はそれがトリック写真ではないか、と疑うことはなく、ただ、「うわー、すごいな」と感じただけだったと思います。でもその本にはその写真についてのコメントがほとんどなく、あまり肯定的な内容でなかったと思います。とりあえず持っておこうと思い、その本を買いました。でもとりあえず手に入れた、という満足感だけで、あまりその本を読みあさることなどありませんでした。

それから数年して、中学校を受験して私立校に通うことになりました。その学校は六年一貫教育で、できて間もない学校だったので、大学の合格校の実績をあげることにかなり熱をいれていました。だからそれからは、勉強ばかりの毎日だったように思えます。そして小さい頃大好きだった宇宙のことなどからほとんど遠ざかって行きました。そして志望大学も最終的に医学部にしました。

そして大学に入ってから、普通の若者が悩むように、自分もいろいろと悩み、大学にも行かずに家でボーっと考える日々が続きました。他の学生が講義を受けている間（もちろん講義に出席する学生はそれほど多くはないのだが）、意味のないことばかりしていたと思います。

ある日思い立って、朝から図書館に行くことにしました。そして自分が本当に興味のあるもの、そしてこれからどうしていこうかを決めるのにヒントになるような本を、適当に選んでは借りてきました。それから図書館に通う日々が幾日か続きましたが、ある時天体のコーナーを通り過ぎるときに、ふと「テレパシー開発法」と言う題が目に入りました。あるいは小さい頃覚えていた「アダムスキー」という言葉がどこか頭の片隅に引っかかっていて、彼の書いた本を何となく探していたのかも知れませんが、あまりよく覚えていません。とにかくこの本を借りておこう、と思いました。この時自分は誰かのテレパシーを受けていたのかな、とか、自分は内部の意識の声に従っていたのかな、などと勝手に想像するのです。が、今ではそのときの自分の心理を確認する手ではありません。しかし不思議なことに、その頃「宇宙の意識」などと言う言葉も知らないのに、「今僕はこの本を借りようとしているわけだが、誰も僕にささやきかけている人はいないな、本当に僕には誰の声もささやきも聴こえていないよな。」と確認していたことです。本当は自分の気づかないところで意識の声を聞けていたのかも知れません。とにかくその本を借りました。

でも帰ってその本を読んだ訳でもなく、三ヶ月ほど借りっぱなしでした。図書館からの貸出の期限切れの手紙がきても返す気にならず、部屋にほったらかしたままでした。

そんなある日、友達と深夜話し合っている時に、たまたま人の心の構造はどうなっているのだろうという話題になりました。人の性格や、本心はどんな構造なのだろうか。もちろん答の出るたぐいの話でないで、うやむやのままに終わりましたが、その日以来、本当の事、真実を知りたい、という欲求が日に日に増してきました。熱くなつてしまい、友達に「僕はほんまのことが知りたいんや。」と言ってしまったこともありました。

いろいろな本を探しては、ページをめくってみるものの、どれも難解な言葉で、わかったようなわからないようなことを書いています。今の文明は、たかだか数千年のもの。一体それだけの期間で人間の本質のどれほどのことがわかるのだろうか疑問に思いました。僕は昔から、この広い宇宙には地球以外の人類がいると信じていました。なぜなら何十億年という間のたまたまこの数十万年の間に広い宇宙の中のこの地球だけに人類が誕生したなど到底思えないからです。宇宙には無数の文明が存在し、中にはこの地球の文明をはるかに越えた人類が存在する、と考えることは極自然のことです。中には時間や重力を克服した人達がたくさんいるでしょう。地球だけが特別なことなどありえないからです。そこで考えたことは、宇宙の科学がそれほど発達

しているのならば、その文明の哲学や、人間についての理解ははるかに進んでいるに違いない。宇宙人の哲学を知りたいということでした。宇宙人の哲学？　そういうえば、アダムスキー全集の中に「宇宙哲学」という本があったではないか。早速「テレパシー開発法」の最後の方を見ると探していた本があったので急いで全巻注文しました。それからの僕の受けた衝撃はGAPの方なら誰でも容易に理解していただけたと思います。

以上長々と僕がアダムスキー哲学を知った経緯を書かせていただきました。

今までGAP会員の方々にいろいろと教えてもらいましたが、そんな今考えていることは、宇宙哲学をいかに日々の日常生活に実践していくかということです。もちろん社会的に大きく活動していくことは大切ですし、いずれそういう活動をしていこうと思いますが、それと同じくらい何気ない日常生活にも意義があると思います。その日その日にどういったことを考えてどういった波動を出したか、周りの人達にどう接したか、つまり具体的な活動以外にも目に見えない活動はあると思います。そしてそれは具体的な結果となって自分の身の回りに帰って来ると思います。人は自分の身の回り、環境に責任を持つべきです。もちろん環境とは広い意味ではこの大宇宙全体ですが、自分が日常生活をする環境に重点をおくこともまた大切です。自分のできる範囲環境を整えていくことが、アダムスキー哲学を実践していくひとつの方法だと考えます。

爽快な気持ち

藤村政横

私は子供のころ本を読むとき、二日目三日目も初めから読むということをやっていました。だからいつまでたっても前に進みませんでした。たしかに二日目、三日目の読むスピードは早くなり読むページ数も多くなっていました。

数学には方程式があります。この問題を解決しようという人達によって生みだされたはずです。人生にも方程式はないのでしょうか、私はあると感じています。A君との車の内での会話で、A君には子供が二人います。一人目の子供の時と二人目の子供の時とは余裕が違うと言う。子供が昼夜泣くので「うるさくてしょうがない」と言う。朝早い仕事なので寝れないのは子供が泣いてうるさいからだと思っていたそうだが、二人目の子供は微笑みながら「へ、へ、へ、余裕よ」と言う。私が「何んで、どこが違うの」と聞くと、何か考えている。私が「それは人のせいにしてたからでしょう」と言う。「うん、そうだ」と言う。

仕事、人生、うまく行っていないのはすべて人のせい……なんですよね？

他人のBさんとの電車の内での体験。

電車の扉付近に立っていたら、左からとことこシャツの右肩が汚れはころんだ、左手に紙袋を持った四十才過ぎのBさんが歩いてきた。止まった。「きったねー」「何だよこの人」「話しか……け……るん・じゃ……」突然Bさん「競馬でスツタンだよね」「きのうはサウナに泊った」と私に話しかけてくるBさんの話は止まらない。建築の仕事をしている、大きなマンションでは家へ入るまでに扉のロックが五つ、六つあると言う。

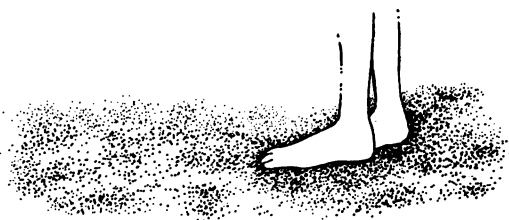
京急線川崎から横浜への快速特急での車内のできごと、私が横浜駅を降りた時、そうみなさんと同じ気持ちだったんです。そうかい（爽快）で、気持ち良く。Bさんは誰かと話しかかったんだなと感じました。私が電車の扉を出た時、Bさんはまた誰かと話をしていました。

私が爽快な気持ちで電車を降りたのは、Bさんを見た目で判断した気持ちをやめて、Bさんの話を聞いていただけなのです。Bさんはアルコール臭く、唾も飛んできましたけど。

好きでない人いますか？ 私は一年に一人は出来ていたんです。言い合いをし

たり、何かをがまんしたり。そう、がまんして、自分が素直になればいいの事は解決します。がまんには限度がありますよね。いやな思いが沸き上がったらがまんするのではなく、その瞬間からハサミのイメージで切ってしまうて、聞くようにしたらBさんとの会話、電車を降りた時、楽しく気持ち良かったということがありました。

自分を知ること、何んで自分を知らなければいけないのか。





アダムスキー 哲学を生かす

小鷹 誠 厳

ふと気が付くと「そこ」にいた。ということがあります。生きていくということは、様々なことがらとの出会いの連続です。それは人との出会であったり、仕事や思想との出会いであったりします。

わたしは「アダムスキー哲学」に出会い、気が付くと「アダムスキー哲学を生かす」というテーマについて考えはじめています。

わたしたちは普通、哲学と聞いただけでそこを避けて通りたくなるものです。しかし、人間についてもう少し深く考えてみると、どのような状態・状況のもとにある人も、自分自身の生き方に関する哲学（自分自身と世界とのかわりに対する見方・考え方）をもたずに生きている人は誰もいないとも言えます。

例えばそれがひとつの「言葉」に沿って生きることであっても、父や母や尊敬できる人を「鑑」とすることであっても、試行錯誤をかさねた末に身につけた「人生哲学」であっても、やむにやまれぬ環境を生き抜いてゆくための「生活上の知恵」であっても……それらすべてが立派に「哲学」であると考えられるからです。

それは生きていくかぎり誰もが抱えている「よりよく生きたい。」ということへの本質的なかわり方の現われです。そしてこの人間の存在の原理としての生の意味・意義の探究においては、すべての人々が複合的にかかわり合い、互いに影響し合いながら、わたしたちのこの世界を形づくっていると考えられます。わたしたちは、自分自身をも含めたす

べての人々のあらゆる想いの総体的な共有世界に生きています。

そして、今わたしたちが学んでいる「アダムスキー哲学」も実質的には「アダムスキー哲学」にこそを寄せるすべての人々のあらゆる経験と、その経験をもとにした理解と意識化の状況に応じて、この世界のすべての人々に共有されていると考えることができます。

「アダムスキー哲学」を学んでいるということは、学んでいる人それぞれの思い・存在に、自然なかたちでその「質」が含まれ表現されるということです。

例えばそれが、とても日常的な「おはよう」や「ごちそうさま」を言うようなことであっても、わたしたちは微妙にあるいは直接的にアダムスキー哲学的な何かをわたしたちの世界に確実に伝播しているのです。

わたしたちは、毎日のように「おはよう」や「おつかれさま」を繰り返していますが、気が付くとそれらの事柄をとて無感動に反復していることがあります。このような「日常的な反復性」や「すでに知っていること」にまつわる無意識化の傾向は、わたしたちの生のあらゆる局面で常に起こりがちなことです。

一九八九年頃にインドの道を歩いていた時のこと、突然「——創造的な関係が愛の関係……」という言葉が心に浮かんできたことがあります。

未開の土地への旅というのは、わたしたちの意識のはたらきについて多くの気

付きをもたらしてくれることがあります。

それはちょうど、わたしたちが幼かった頃から現在に至るまで、どのように自分自身をとりまく未知の世界・環境のかかわり、今もまたかわり続けているのかということへの豊かな理解を学んだ経験でもあるように思われます。

旅は習慣的な生活空間から、未知の体験の世界へとわたしたちを連れ出してくれます。その時、わたしたちの感受性（感性）は、あたらしい体験を内化しようとしてとても能動的（意識的）にはたらかはじめます。それはなにか感受され得るすべての事象に対して、意識のあらゆる能力が総動員されて、一斉に動きだしたようにも感じられます。

「——創造的な関係性（創造性）が愛の関係（関係性の本質）である……」と理解することができれば、わたしたちの意識が能動的（意識的）にものごとにかかわってゆくときに起こっていることは、常に新しい経験を自分自身に対して内化（一体化）しようとする愛のはたらきであり、それはまた、わたしたちに自然にそなわっている、関係性に関する本質的なはたらき「創造性」そのものであると考えることができます。

このように、わたしたちの意識は常に創造性と共にあり、意識的にもものごとにかかわってゆくことが出来れば出来るほど、わたしたちに内在している創造的な感性が発現してくるのだと思われまします。意識が増すときには、愛もまた増します。それは（おそらく）意識が愛で

あり、そして創造性でもあるからです。

イエス・キリストについての言い伝えを聞くとき、わたしたちは、その人並み外れた氣付きのちから（意識的意識）に驚かされます。

イエスがわたしたちと同様に人間であり、また、わたしたち人間にとつての潜在的可能性でもあるということはとてもすばらしいことです。

わたしたち人間は、永い時に互つて意識の進化（意識化）の道をたどってきました。わたしたちの内奥には、意識にかかわる無限の能力が潜在しています。

そして、能力やその可能性をそなえて持っているということは、（わたしたちのそれぞれが）、意識“に対する”責任“を担っているということでもあります。”意識があつて愛があれば、そこに”工夫“が生まれてきます。それは、わたしたちに可能な、とても楽しく愛に満ちた日常的な経験の在り方です。

「生活の中にもう少しの美を。」
「生活の瞬間瞬間にもう少しの愛を。」
「生活する生命・いのちにもう少しの自然さを。」

この原稿を書いているときに、何気なくテレビの画面を眺めていると、番組のなかでこけし作りの作業を見ていると、はじめに角ばった材料が回転する軸に据えられ、作業用のノミが、その回転する木材に当てられます。ノミを当てていると削りくずが飛び散り、思いがけないほどの速さであのようなこやかで美しい

こけしの形が現われて来ます。

回転する力とノミの当て方によって、ただの角ばった素材が鮮やかに変容してゆくのを見ていると、当然の理でありながら、とても感動的な思いにかられてきます。

それはちょうど、わたしたちの内にあり、わたしたちを生かし続けている宇宙的な生命力と、わたしたちの意識との関係のようにも感じられるからです。

わたしたちは、わたしたちの（意識的意識）のはたらきによって、日常生活における意識野の限定性と無意識的な反復傾向を微妙に変化・解消させてゆくことができます。

例えば、たった一杯のコーヒーを飲むことであっても、わたしたちは全体の意識と共にそのコーヒーを味わうことも可能なのです。そして、わたしたちの意識野が拡大してゆくときには、必ずわたしたちの喜び（幸福感）もそれにともなつて広がって行きます。

わたしたちの生活はちいさい事柄の連続であり、またその総体です。

ほんの些細なことでも、全体の意識をとまなつて何ごとを為してゆくということとを少しずつ積みかさねて行くならば、いつかはそのことが、わたしたちの生にとって自然である状態へと変つて行きます。

宇宙は休みなく生成変化しながら、無限の経験（体験）をわたしたちと共に重ねて行きます。そして、そのような生に対する感じ方（生の在り方）が、“宇宙

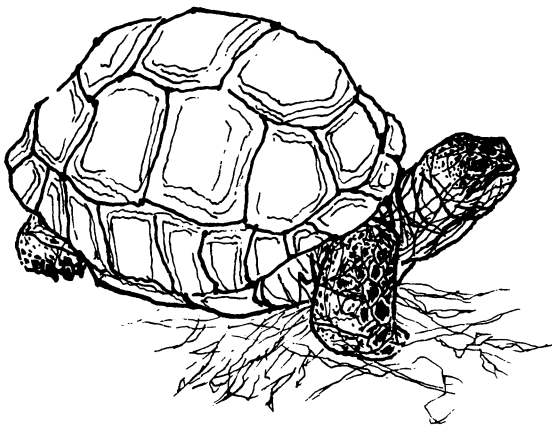
の意識を生かしている“あるいは”宇宙の意識を生きている“と言いつける状態なのだと思います。

宇宙が何んでもあるかについて、わたしは何も知りません。しかし、宇宙は常に不眠不休で創造し続けており、宇宙は“創造性”そのものであると理解することはできます。

今よりも少しだけ意識的に生活上のものごとにかかわってゆくことによって、わたしたちは確実にこの宇宙の本質的なはたらきと調和してゆくことができます。そして、そのような経験のなから、

わたしたちにとつての多くの新たな氣付き（発見）がもたらされ、全体と共に深く歩むことを通じて、これまで解け得なかった多くの事柄にも自然な解決の瞬間が、おのずと訪れて来るのではないかと（わたしには）思われるのです。

原稿を終えて、あらためて自分自身を振り返ってみると、現状は実に惨たんたるものです。「生かす」と言うにも程遠いみことな「角材」のままのようです。今回、このような素晴らしいテーマを与えてくれた友人に感謝します。



大成功!! 横浜支部 UFO観測会

外野 浩司

去る、七月三十日にかねてから懸案であった、横浜支部としてのUFO観測会を実施いたしましたので、その報告をいたします。

観測会の前日はめずらしく一日中雨が降り(連日、晴天が続いていた。)、当日の天候も心配されましたが、前夜、代表の清水さんのところに電話を入れると、「だいじょうぶですよ、明日は晴れますよ。」と力強い言葉をもらい、よし、明日はだいじょうぶだ。やるんだぞ!と再度、自分の気持ちを奮いたせました。さて、いよいよ観測の当日です。夕方五時ごろ、早めに現地(葉山町南郷上ノ

山公園)に車で来ている清水さんと一緒に、JR逗子駅に電車での参加者を迎えに行きました。結局、集合時間の六時過ぎまで待ったところ、代表の清水さん、南足柄の井川さん、千葉の青木さん、町田の折登さん、横浜の和泉君(高校生)、と私(外野)の計六名の方の参加がありました。

全員そろったところで、二台の車に分乗し、観測前に逗子海岸のファミリーストランで夕食会を行いました。窓越しに見える海辺の景色を見ながら、最近の話題である、木星への彗星の衝突の事やスペースシャトルの飛行の事等、GAP会員ならではの話題に花が咲き、尽きることはありませんでした。そうこうしているうちに、あたりも薄暗くなってきたので、いよいよ観測場所である南郷上ノ山公園に移動しました。

観測場所の南郷上ノ山公園は、逗葉新道(横浜横須賀道路、逗子インターチェンジを降りてすぐに連結されている。)の近くにある森林公園で、周囲は山に囲まれていて、人家がいっさい見えず、UFO観測には適したところでした。

現地に着き、観測ポイントを決めるために皆で少し歩きましたが、多目的グラウンドの端の方に落ちつきました。特にそこにする理由はなかったのですが、全員のフイーリングで何となく決まりました。そこで大きなシートを広げ、皆思い思いのリラックスしたスタイルで観測が始まりました。

最初は、夜空を眺めながら、ざっくばらんにたわいもない話をしていました。

皆、期待感でいっぱいです。そんな中で一人清水さんは、シャッターチャンスを物にしよう、と、カメラのセッティングに精を出していました。

天空の状態も最初は流れの早い水蒸気雲が覆いつくしていましたが、しだいにそれもなくなり、星々がはっきりと見えだしてきました。(※観測場所にはど近く海があるので、夏場是水蒸気雲が発生しやすい。)私は、天を二分して、南半分の方角に意識を集中しました。

北方向は、横浜方面の夜景で少し空が明るかったせいもある。でも、他の人もどうやらそのようでした。そして、流れ星もちらほらと見え始めました。

観測を始めて一時間ぐらいたった時です。南方(公園管理事務所の左上方)の方角に、小さな光体がジグザグと動いたのです。(八時三十五分頃)その付近の星々との相対位置関係で、はつきりと動いていると認識しました。「あれUFOじゃない!」と私は他の人にも声をかけましたが、約五秒程度の目撃だったので、三名ほどの人しか目撃できませんでした。しかし、他の目撃者がいたのでよかったと思いました。今日は何か期待できそうだったという印象を強く持ちました。この最初の目撃でがぜん皆の気持ちが高揚してくるのがわかりました。

そして、それから少し経った、八時五十分頃の事です。おおむねの状態で見ている天空の真上の方向で、輝く光体が現れたのです。その輝きがあまりに大きく(星の二、三倍)、動きもハデにランダムに動いたので、思わず私は「あれ!す

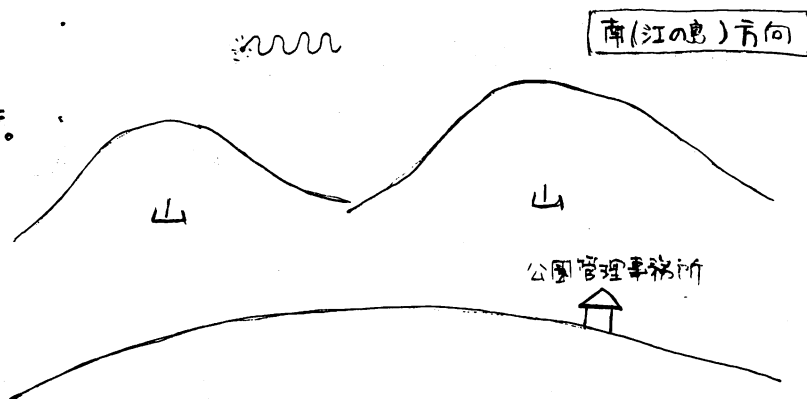
ごい!すごい!」と絶叫してしまいました。この目撃は時間にして十秒あったので、全員で確認できました。シャッターチャンスをねらっていた清水さんも、しばらく動揺して動けなかったくらいです。

この二回の目撃後は参加者全員が、しばらくの間興奮状態でした。はつきりと地球外知的生命体の存在を視覚で認識できたのです。いや、過去にも数回目撃はあったのですが、夜間これだけの動きを見たのは始めてです。「よかった。よかった。」ただその気持ちだけでした。

それから九時十五分ぐらになつてから、又、水蒸気雲が天空を覆い始め、九時三十分頃にはほとんど星も見えなくなったので、予定どおり観測を打ち切りました。そして、観測ポイント周囲の後片づけを行い、引上げることにしました。帰りしな、参加者全員が今日は成果があったとてもよかったと言ってくれたので私も観測会を企画してよかったなあと心から思いました。

後で思うと、二回目あの大きな目撃は全員で目撃できたので、GAP活動に対するスペースビープルの激励だったのではないかと思いました。いずれにしても短時間(観測は実質二時間くらい)にもかかわらず目撃できたのは、たんにラッキーだっただけでなく、今回の参加者全員の純粋な気持ちがスペースビープルに届いた結果だったと思います。私は今回の成功に気をよくし、今後もGAPのみなさんと一緒に今後も観測会を続けていくつもりです。

小さい(点のような)
光体がぎくざくと飛行。
時間にして5秒くらい
3名程度で目撃。

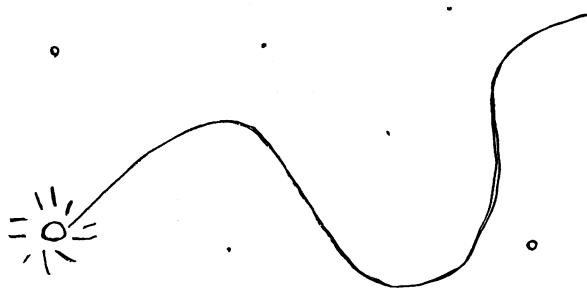


スズメ

葉山町・南郷上ノ山公園 7月30日 PM8:35頃(1回目) 晴れ

天空の真上方向

出現してから、ぐんぐん
輝きを増し(星の2~3倍)
大きくうねりながら飛行。
時間にして10数秒
全員で目撃。



葉山町・南郷上ノ山公園 7月30日 PM8:50頃(2回目) 晴れ

アグニュー・バンソン氏の 電氣的推力発生装置

杉山 敏 樹

はじめに

地球人が異星人との文化的交流を果たすためには宇宙哲学の実践と科学技術の発展が必要であるとアダムスキー氏は述べています。

宇宙哲学についてはGAPの誰もが取り組んでいるテーマですが、科学技術に関しては専門分野に属するためあまり取り上げられることはありませんでした。そこで本稿では、科学技術面に触れ一九六〇年代に取り組まれていた宇宙船の推進原理の一研究について簡単に紹介したいと思います。

アダムスキー氏と親しかった人物の一人にアグニュー・バンソン

(Agnew H. Balmson, Jr.)氏がいます。かつてバンソン氏が来日した折りに、久保田会長に会見しアダムスキーの真実性について語っており、宇宙哲学に関しても深い理解を示している人物という印象を受けました。

バンソン氏は電氣のパワーを用いて推進力を得る機関を発明し、アメリカで特許を取得したほか、日本にも「電氣的推進力発生装置」として出願し一九六二年に特許を取得しています。(「特許公報昭三七(六五五五)」。私の知人では会社の特許関係の業務に携わっている人から聞いた話では、日本の特許庁は世界で最も審査が厳しいということですが、ですから新しい自然科学の法則を応用したこの手の特許申請はよほど根拠がしっかりしていなければ特許取得に至ることは難し

いと思います。にもかかわらずバンソン氏の発明が日本で特許として登録されたということは十分に手応えのある情報を提供してくれていると考えてよいでしょう。

技術的背景

特許公報を見えますと、バンソン氏以前に知られていた電氣的推進力発生原理を画期的に改良したものであることが書かれています。

以前の原理は、ビーフェルト・ブラウン効果と呼ばれており次のような方法で推進力を発生するものです。二枚の金属板を向かい合わせてそれぞれ正負に帯電させると、全体として負から正の方向に働く弱い力が生まれます。一組の金属板を単位として多数集合させると力は強くなりますが、それでも無重力空間でやっと動く程度のものでした。

特許のポイント

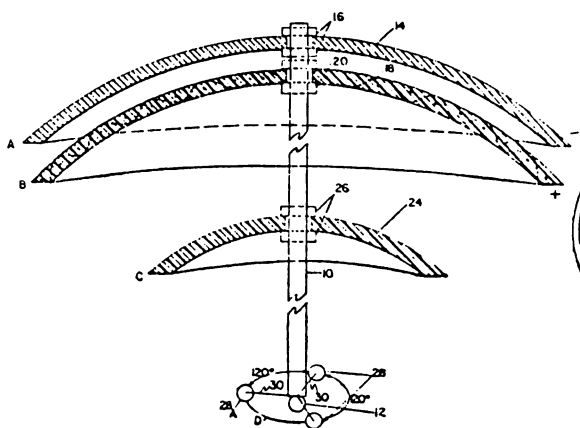
バンソン氏は次の改良を加えることによって大きな浮揚力および推進力を得ています。

一、正負の電極のサイズをアンバランスにし、大小のパラポラアンテナのような曲面にする。

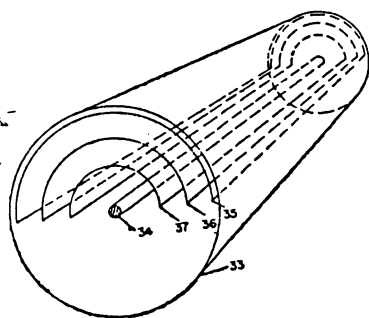
二、電極の間にダミーの電極を挿入し全体で十一となるような三ないし四構造にする。

三、ダミーを含めて三枚の電極を互いに逆方向に回転できるような機構にする。

第1図



第2図



四、静電氣的な電圧だけでもよいが、これに交流電圧を重ねるとさらに効果は強くなる。

五、交流電圧を用いる場合、推進力が急増するような周波数が存在する。

バンソン氏が発見した上記の基本条件をスカウトシップに見立てた構造のシス

テムに応用し、実施例として特許の中に紹介しています。例えば次のような部分です。

◎フランジの少し内側に互いに逆方向に回る二枚の電極を配置する。

◎球形着陸ギヤの内部は船体と類似した三重構造とし、各ギヤが推進力・浮揚力を生み出すようにする。

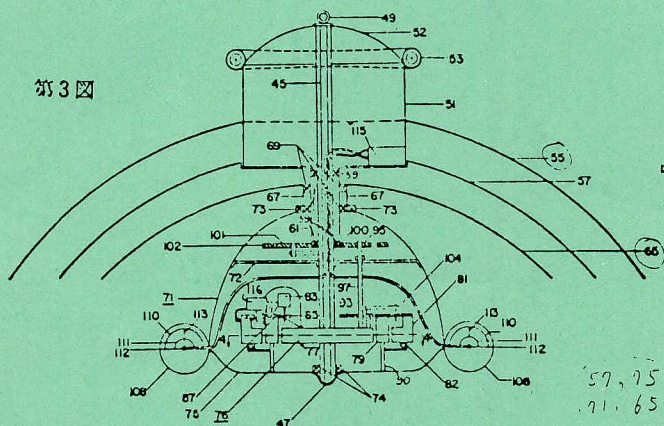
◎三個の着陸ギヤに加えるパワーを別々に調節することにより方向転換を可能にする。

上記の内容は金星のスカウトシップそのものを指しているのではなく、あくまでもそれをモデルにして地球の技術で置き換えたものであることを付しておきます。

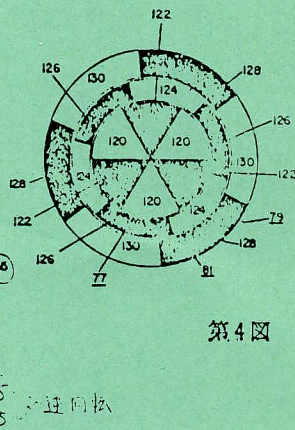
パンスン氏は一連の発明を全く独自に思いついたのかアダムスキー氏からヒントを得ていたのかは不明ですが、いずれにしても貴重な成果が産業の分野で応用されていないのは残念なことです。氏の意志を継ぐ研究を進めるには多少の工作技術が必要となりますが、さほど困難なものでもありません。純粋な探求心をお持ちの方は取り組んでみてはいかがでしょうか。

文章を構成するに当たって、支部報の全体のバランスを考慮してややこしい専門知識や余計な推測は避け、簡単に紹介しましたが、一服の清涼剤として刺激になれば幸いです。

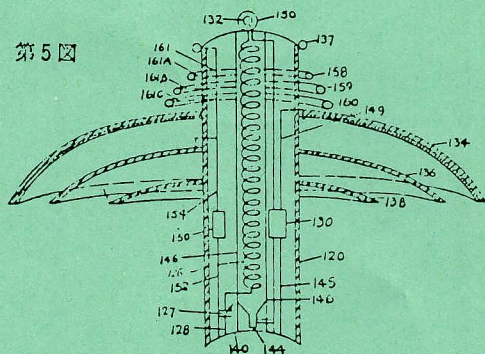
第3図



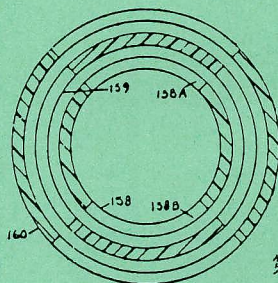
第4図



第5図



第6図



編集後記

★たぐさんの方々から横浜支部報への期待をいただきながら前回二号よりようやくの完成の運びとなりました。今回は昨年三月二〇日に行われました横浜支部大会での久保田会長の御講演をそのまま掲載できました、長い時間がかかりましたが、形となりましたことに大きな喜びを持っています。

★横浜支部ではUFO観測会を不定期ながらも続けています。参加は自由で、夕食会と共に観測は楽しく行なっています。

★今号もGAP会員の皆さんの協力を得て読み応えのある内容となりました。横浜支部報が今後も皆様のお役に立てば幸いと思います。

★杉山氏からの情報でアグニニュー・パンスン氏の特許については意外な事実があるものと驚きました。久保田会長は昭和三十六年一月にパンスン氏と会ってUFO研究に強い自信と勇気を与えられたと述べています。この頃パンスン氏はこうした科学技術を通じてアダムスキーの真実を裏づけをする活動を各国で行っていたことになると思います。

日本GAP横浜支部報
ONENESS 三号

編集発行人 清水 正

発行所 日本GAP横浜支部
〒一七一 東京都豊島区西池袋
三一八一七

☎〇三―五九五一―三五一八
一九九五年五月二〇発行